取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

Vitz

TABLE OF CONTENTS
目次

ナビゲーションシステムを装着された方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

TABLE OF CONTENTS | 目次

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. さまざまな状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

6 車両仕様

さくいん

外観

G' s を除く

ヘッドライト
（ロービーム／ハイビーム）P. 143

方向指示灯 P. 124

ワイパー P. 150

ボンネット P. 247

ドアミラー P. 62

方向指示灯 P. 124

フロントフォグライト ＊ P. 147

車幅灯 P. 143

G's

G's を除く

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

運転席 SRS エアバッグ P. 76
ヘッドレスト P. 52
助手席 SRS エアバッグ
P. 76
デッキボード ＊ P. 230
A
B
C
STOPIANC03
フロアマット
P. 228
リヤシート P. 49
SRS サイドエアバッグ ＊ P. 76
フロントシート P. 48
助手席シートアンダートレイ ＊ P. 209
買い物アシスト ＊ P. 216

A

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ウインドウロックスイッチ P. 65
ドアロックスイッチ P. 39
ロックレバー P. 40
STOPIANC05
パワーウインドウスイッチ P. 65
ドアポケット P. 209
ボトルホルダー P. 210

C

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

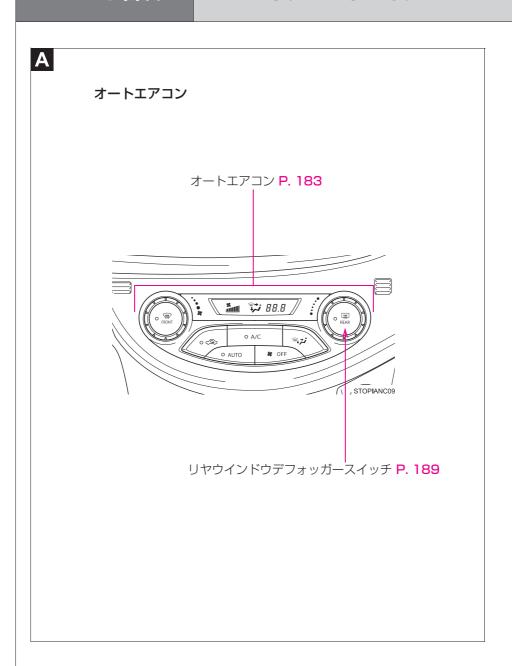
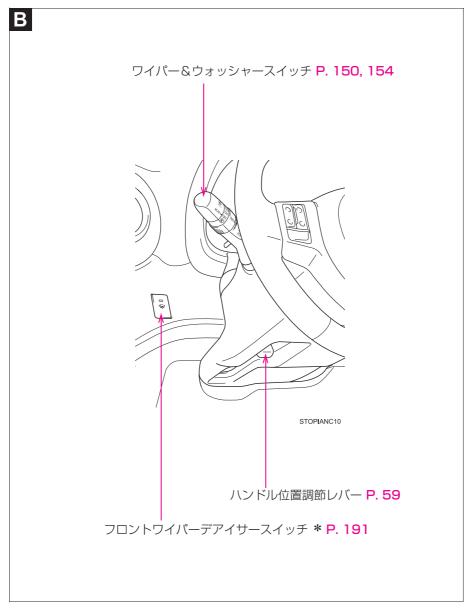
A

マニュアルエアコン

マニュアルエアコン P. 178

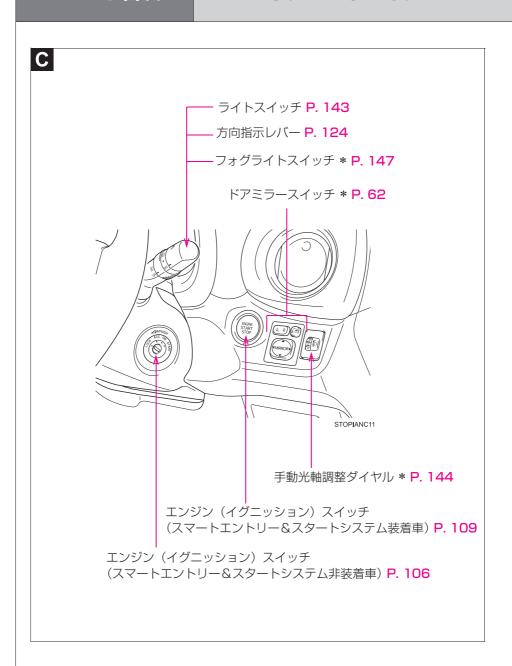
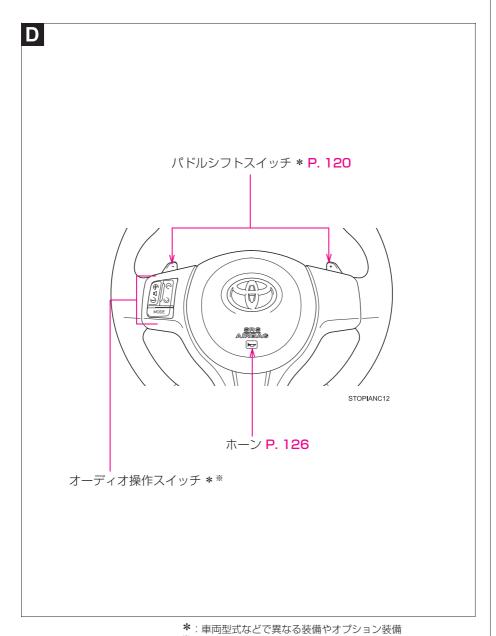
STOPIANC08

リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 189

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

A
オートエアコン
オートエアコン P. 183
FRONT
88.8
A/C
AUTO
OFF
REAR
STOPIANC09
リヤウインドドウデフォッガースイッチ P. 189

B

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています。)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 85)を参照してください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

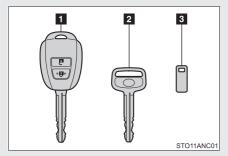
⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

1 運転する前に

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

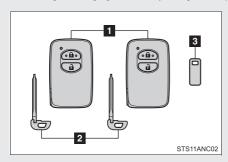
STO11ANC01

1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P. 36）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

3 キーナンバープレート

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

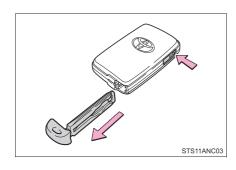
STS11ANC02

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 25）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 36）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

STS11ANC03

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 332）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 331）

■航空機に乗るときは

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーについて

ワイヤレスキー・電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

⚠ 注意

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

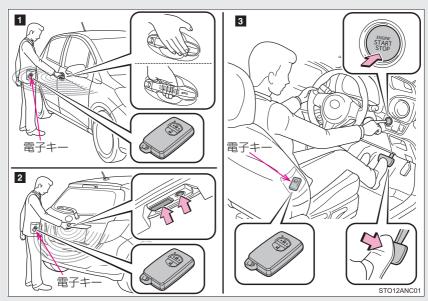
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

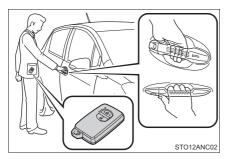
キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム*

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)

1 ドアを施錠・解錠する(→P. 26)
2 バックドアを施錠・解錠する(→P. 27)
3 エンジンを始動する(→P. 109)

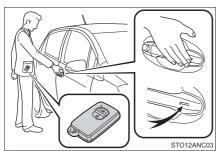
*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

STO12ANC02

ドアハンドルを握って解錠する

ドアハンドル裏面のセンサーに確実にふれてください。

施錠操作後約３秒間は解錠できません。

STO12ANC03

ドアハンドル表面のロックセンサー（ドアハンドルのくぼみ部）にふれて施錠する

バックドアの解錠・施錠

STO12ANC04

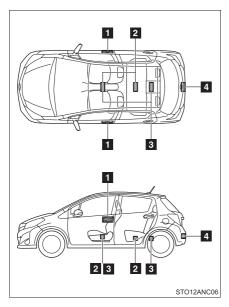
バックドアオープンスイッチを押して解錠する

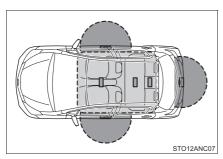
施錠操作後約３秒間は解錠できません。

STO12ANC05

ロックスイッチを押して施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ
2 車内アンテナ（FF 車）
3 車内アンテナ（4WD 車）
4 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

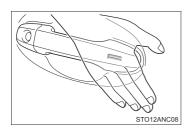
：エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。

■警告ブザーと警告灯について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告ブザーが鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P. 297）

警告ブザーのみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告ブザー	状況	対処方法
車内から“ピー”と 1 回鳴る 車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

警告ブザー	状況	対処方法
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約３０秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・ 車の外約 2m 以内に電子キーを１０分以上放置した。
・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。

●１４日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（→P. 332）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・エンジン始動時またはモード切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約３０秒後に自動的に施錠されます）

●電子キーが車両に近い位置にあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンを使って解錠すると復帰します）

■施錠時の留意事項

●手袋を着用してロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されないことがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●施錠操作は、連続で２回まで有効で、３回目以降は施錠動作しません。

●電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

●車内に電子キーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しないことがあります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されないことがあります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着用してドアハンドルを握った場合、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。その場合、手袋をはずしてドアハンドル裏面のセンサーにふれてください。

●電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警告ブザーが鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドア・バックドアの施錠・解錠ができない

・ワイヤレスリモコン（→P. 36）
・メカニカルキー（→P. 332）

●エンジンの始動ができない（→P. 332）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。（→P. 297）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 272

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。

（カスタマイズ一覧 →P. 358）

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

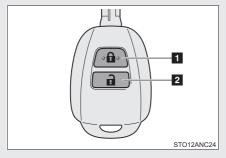
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 28）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

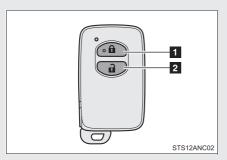
ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

STO12ANC24

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

スマートエントリー&スタートシステム装着車

STS12ANC02

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

知識

■作動の合図

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

解錠操作後、約３０秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 30

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

●近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき

●無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき

●ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●ワイヤレスリモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 31

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

●キー（→P. 39）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

●スマートエントリー&スタートシステム（→P. 25）

●メカニカルキー（→P. 332）

■電池の消耗について

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・ワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 34

■電池が切れたときは

→P. 272

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 358）

ドア（フロントドア、リヤドア）

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン・キー・ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム *

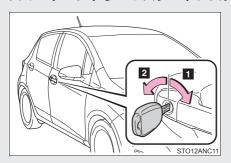
→P. 26

■ ワイヤレスリモコン

→P. 36

■ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 運転席ドアを施錠する

2 運転席ドアを解錠する

運転席以外のドアは、施錠・解錠されません。

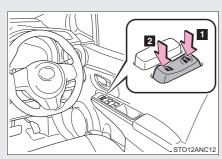
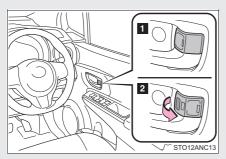
スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→P. 332)

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ロックレバー

1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

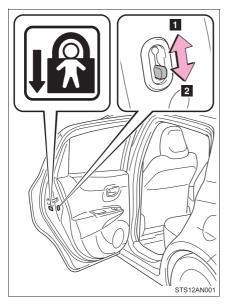
手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最害の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- ●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

スマートエントリー&スタートシステム*

→P. 27

ワイヤレスリモコン

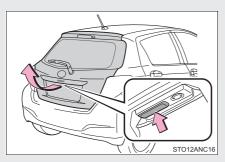
→P. 36

キー

→P. 39

ドアロックスイッチ

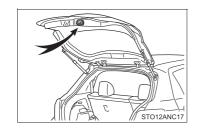
→P. 39

■ 車外からバックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

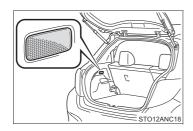
知識

■バックドアを閉めるときは

STO12ANC17

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

バックドアオープンスイッチを押したあと、約1秒間はバックドアを閉めることができません。

■ラゲージルームライト

STO12ANC18

バックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

警告

■走行中の警告

- ●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

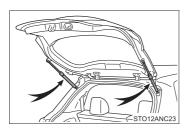
●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

警告

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

⚠ 警告

■ リクライニング調整について

● 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

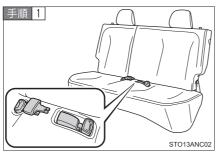
● シート調整後はシートがしっかりと固定されていることを確認してください。

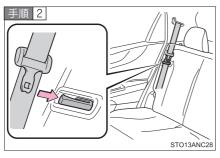
リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

■ 操作する前に

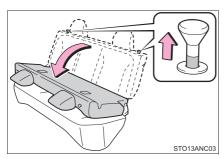
STO13ANC02

手順 1 リヤシートベルトのバックルを格納する

STO13ANC28

手順 2 シートベルトをベルトハンガーにかける

手順 3 ヘッドレストをいちばん下まで下げる

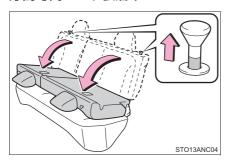
■ 前に倒すときは

一体可倒シート装着車

STO13ANC03

ロック解除ノブを引き、背もたれを前方に倒す。

ロックが解除されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えます。

分割可倒シート装着車

STO13ANC04

ロック解除ノブを引き、背もたれを前方に倒す

ロックが解除されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えます。

■ もとにもどすときは

一体可倒シート装着車

STO13ANC05

背もたれを起こして固定する

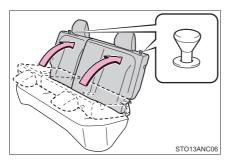
固定されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えなくなります。

分割可倒シート装着車

STO13ANC06

背もたれを起こして固定する

固定されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えなくなります。

⚠ 警告

■リヤシートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中にリヤシートを操作しない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車ではシフトレバーを P、マニュアル車ではシフトレバーを R にする
- ●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- ●倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

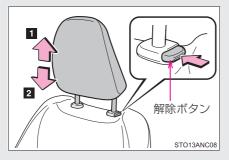
■背もたれをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- ●シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

- ●ロック解除ノブの赤ラベルが見えていないことを確認する

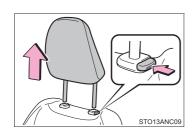
ヘッドレスト

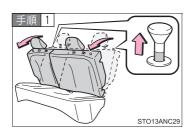
調整式ヘッドレスト装着車

1 上げる

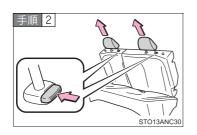
2 下げる

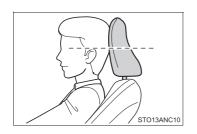
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■フロント席のヘッドレストを取りはずすときは（調整式ヘッドレスト装着車）

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■リヤ席のヘッドレストを取りはずすときは

ロック解除ノブを引き、背もたれを前に倒す。

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす。

■フロント席のヘッドレストの高さについて（調整式ヘッドレスト装着車）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて（調整式ヘッドレスト装着車）

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

３点式シートベルト

STO13ANC11

- 肩部ベルトを肩に十分かける
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

２点式シートベルト

STO13ANC12

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

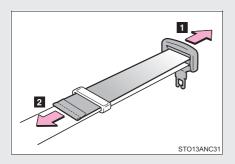
■ 着け方、はずし方

STO13ANC13

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

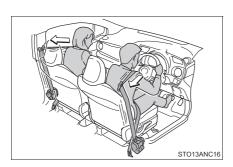
2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

■ シートベルトの長さ調節（2点式シートベルト）

STO13ANC31

1 伸ばす

2 縮める

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

STO13ANC16

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 54)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 85)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 54)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

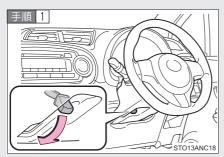
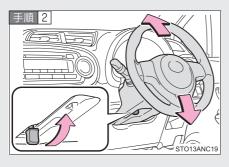
●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

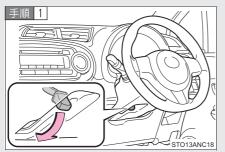
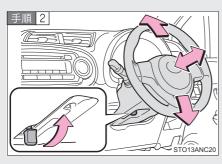
●プリテンショナー付きシートベルトの取り付け・取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

チルトステアリング装着車

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

チルト＆テレスコピックステアリング装着車

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

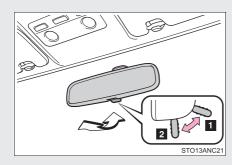
■**走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

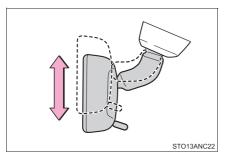
■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

2 防眩時

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

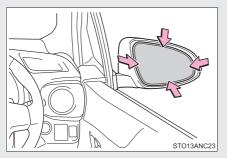
⚠ 警告

■運転中の警告

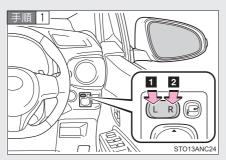
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

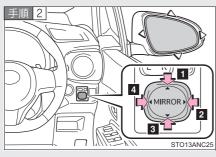
ミラー鏡面の角度調整をします。

手動式ミラー装着車

ミラー鏡面を手で押して角度を調整する

調整したあとは、運転席に座りドアミラーで後方確認が十分できるか確認してください。

電動格納式ミラー装着車

スイッチを押して、調整するミラーを選ぶ

1 左

2 右

スイッチを操作してミラー鏡面を上下左右方向に調整する

1 上

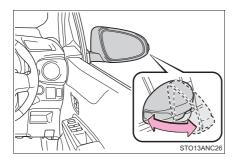
2 右

3 下

4 左

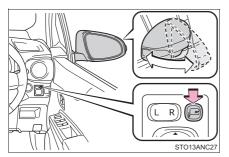
ドアミラーを格納するときは

手動式ミラー装着車

STO13ANC26

ドアミラーを手で後方に押して格納する

手で前方に押してもとの位置にもどします。

電動格納式ミラー装着車

STO13ANC27

スイッチを押してドアミラーを格納する

もう一度スイッチを押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件（電動格納式ミラー装着車）

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

警告

■**走行しているときは**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

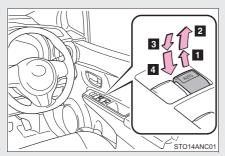
● ドアミラーを格納したまま走らない
走行前に必ず、運転席側および助手席側のドアミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■**ミラーが動いているときは（電動格納式ミラー装着車）**

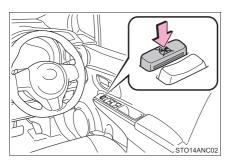
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

1 閉める
2 自動全閉（運転席のみ）※
3 開ける
4 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動（運転席のみ）

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、運転席のパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- ●車を停止し、エンジン　スイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車)、または“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- ●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

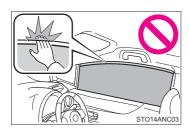
手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

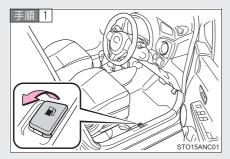
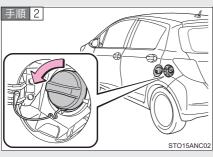
■ 給油する前に

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

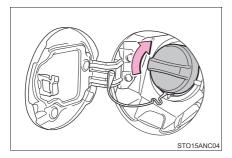
ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“LOCK”にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

ドアとドアガラスを閉め、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFF にしてください。

■ 給油口の開け方

オープナーを上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

給油口のキャップを閉めるときは

STO15ANC04

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

42 L

⚠ 警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

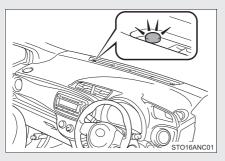
■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム*

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ **メンテナンスについて**

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

●キーが金属性のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1. まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 48）
2. シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 48）
3. 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 48）
4. SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 59）
5. 調整式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 52）
6. シートベルトが正しく着用できる（→ P. 54）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

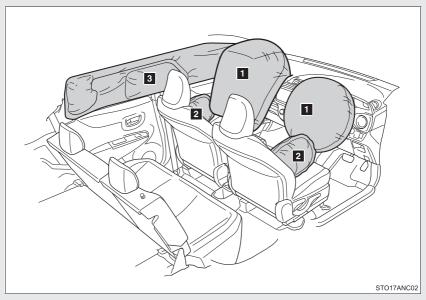
●フロントシート（シートアンダートレイ付きの助手席を除く）の下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ*

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- ●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- ●作動音とともに白いガスが発生します。
- ●SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- ●SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- ●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

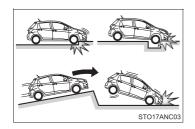
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- ●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- ●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ*）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

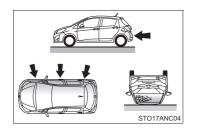
■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

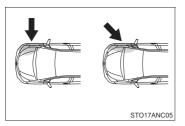
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

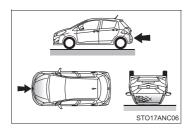
●後方からの衝突

●横転

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ*）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

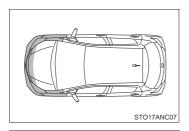
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

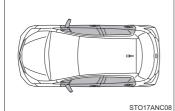
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

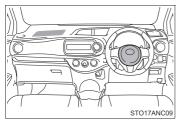
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

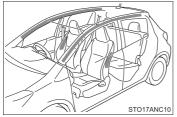
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかのSRSエアバッグがふくらんだとき

STO17ANC07

●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STO17ANC08

●SRSサイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STO17ANC09

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

STO17ANC10

●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

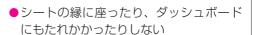
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

● 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

● お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 85)

● シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

● お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

● 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠ 警告

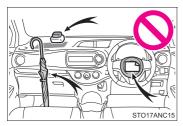
■SRS エアバッグについて

STO17ANC13

●SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

STO17ANC14

●SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

STO17ANC15

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

STO17ANC16

●SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P. 318）

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSサイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ非装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

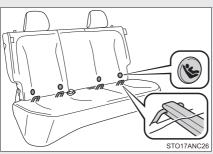
■改造・廃棄について

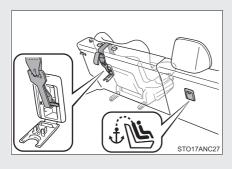
トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書に従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→P. 86)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 87)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)

トップテザーアンカー
(→P. 87)

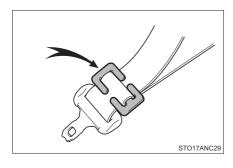
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートの外側の座席に装備されています。

シートベルトで固定する

STO17ANC28

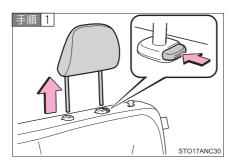
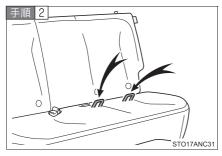
チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

STO17ANC29

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

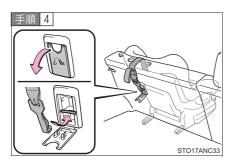
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストをはずす（→P. 52）

固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

STO17ANC36

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

STO17ANC37

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→P. 86、87）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. さまざまな状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行ください。

■ エンジンをかける

→P. 106, 109

■ 発進する

オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 117）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 125）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

マニュアル車

手順 1 クラッチペダルとブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする（→P. 123）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 125）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 117）

マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。（→P. 123）

■ 駐車する

オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 シフトレバーを P にする（→P. 117）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 125）

手順 4 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 シフトレバーを N にする（→P. 123）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R にし、輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 125）

手順 4 スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

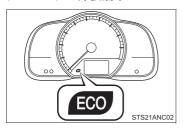
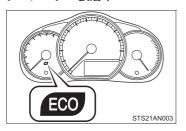
■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転（オートマチック車）

タコメーター非装着車

タコメーター装着車

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトレバーが D 以外のとき

●SPORT モードスイッチ装着車：走行モードが SPORT モードのとき（→P. 119）

●パドルシフト装着車：パドルシフトスイッチを使用しているとき

●車速が約 100km/h 以上のとき

エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を設定できます。（→P. 141）

⚠ 警告

■発進するときは

オートマチック車では、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

警告

- オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーをＰに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをＲに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーをＤ（オートマチック車）または１（マニュアル車）に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをＮにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 345を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 119）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

警告

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など､重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや､旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど､エンジン回転数の急な変化は､車が横すべりするなどして､思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり､ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ､思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく､思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP(オートマチック車)にしてエンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素(CO)が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

⚠ 注意

■運転中は（オートマチック車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■運転中は（マニュアル車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。

●クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

・クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
・1 速以外での発進は避ける
・坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない

●車がまだ動いているときに R に入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギヤに損傷を受けるおそれがあります。

■駐車するときは（オートマチック車）

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

■**タイヤがパンクしたときは**

応急用タイヤ装着車

応急用タイヤに交換してください。(→P. 300)

タイヤパンク応急修理キット装着車

タイヤの損傷の程度を確認してください。

●修理可能な場合は、応急修理してください。(→P. 310)

●修理不可能な場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスファー(4WD 車)・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト(4WD 車)・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■ エンジンのかけ方

オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジン スイッチを“START”の位置にまわす

マニュアル車

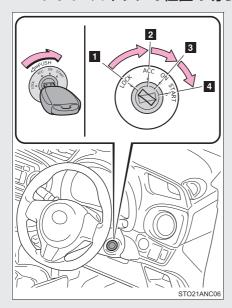
手順 1 正しい運転姿勢（→P. 74）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

手順 5 エンジン スイッチを“START”の位置にまわす

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ

1 “LOCK”（OFF）

・ ステアリングロックがかかります。
・ キーを抜き挿しすることができます。
（オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます）

2 “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

すべての電装品が使用できます。

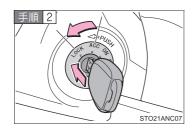
4 “START”

エンジンが始動できます。

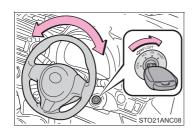
知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

手順 1 シフトレバーが N（マニュアル車）または P（オートマチック車）の位置にあることを確認する

STO21ANC07

キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

STO21ANC08

ステアリングを左右に動かしながら、エンジン スイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジン スイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを停止し、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

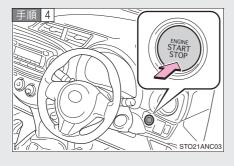
シフトレバーがP以外の位置にあるとエンジンを始動させることができないことがあります。（→P. 117）

手順 3

ブレーキペダルをしっかり踏む

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

手順 4

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

マニュアル車

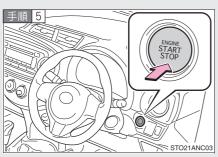
手順 1 正しい運転姿勢（→P. 74）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまで各ペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジンの停止方法

オートマチック車

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 シフトレバーを P にする（→P. 117）

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 125）

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

マニュアル車

手順 1 車両を完全に停止させる

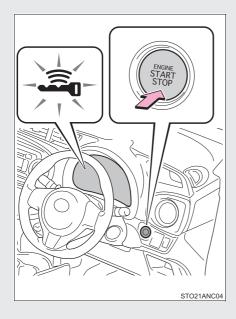
手順 2 シフトレバーを N にする（→P. 123）

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 125）

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

手順 5 クラッチペダルとブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※：シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。（オートマチック車）

シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止したときは（オートマチック車）

シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させた場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードはアクセサリーモードになり OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーをＰの位置にする。

手順 3 スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを１回押す。

手順 4 スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する。

知識

■自動電源 OFF 機能

オートマチック車

シフトレバーがＰにあるとき、１時間以上アクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ”スイッチが自動で OFF になります。

マニュアル車

１時間以上アクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 34

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

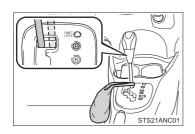
→P. 31

■ご留意いただきたいこと

→P. 32

■エンジンが始動しないときは

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 73)

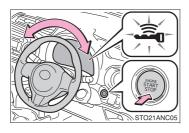
STS21ANC01

●次の状況では、ステアリングロックが解除されていない可能性があります。

・シフトレバーに袋などをかけている
・“エンジン スタート ストップ” スイッチを押す前にシフトレバーを傾けた

■ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロックによりハンドルが固定されます。“エンジン スタート ストップ” スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

STO21ANC05

ステアリングロックが解除されていないときは、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が 15 秒間緑色に速く点滅します。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー&スタートシステム表示灯が黄色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 272

■“エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について

- “エンジン スタート ストップ”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合や速く連続して押した場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。“エンジン スタート ストップ”スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ドアの施錠操作をしたりしないでください。ステアリングロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ”スイッチを３秒以上押し続けるか、素早く３回以上連続で押してください。
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していない場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF になっていません。“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●オートマチック車はシフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

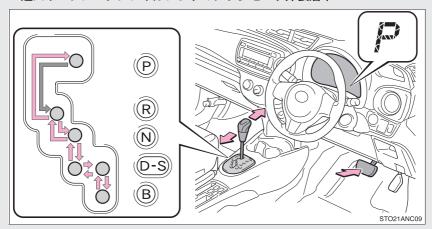
■“エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション＊

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

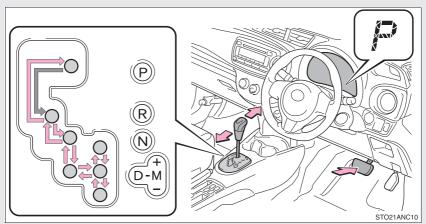
■ シフトレバーの動かし方

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード非装着車

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

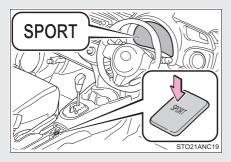
スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード非装着車	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	
M		7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行
S	坂道走行	
B	急な下り坂走行	

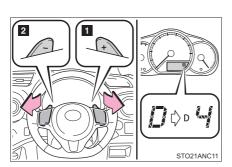
※燃費向上や騒音の低減のために、通常時は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

スイッチを押す

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。スイッチを押すと、メーター内の SPORT モード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行モードへもどります。

一時的な７速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。

1 シフトアップ

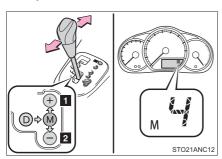
2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

７速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ (7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車)

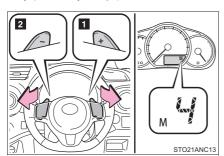
シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思いどおりの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側の操作で変速段を選択することができます。

シフトレバー

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

パドルシフトスイッチ

1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

知識

■変速段機能（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

- ●エンジンブレーキ力は、7 段階から選択が可能です。
- ●シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■ 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時の自動変速について

変速段を固定して走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、現在の変速段から自動的に 1 段シフトアップ、またはシフトダウンされます。

■D ポジションでの一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードの解除 （7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

次のとき、自動的に D ポジションでの一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードが解除されます。

- ●車両停止状態のとき
- ●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- ●パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上押し続けたとき
- ●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■Mポジションで走行中に停車したときは
（7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

●停車すると自動的にM1にシフトダウンされます。

●停止後走行するときはM1からの発進となります。

●停止後はM1に固定されます。

■シフトレバーをPからシフトできないときは

→P. 330

■シフトレバーをMにしても、M表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは
（7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

■シフトダウン制限警告ブザー
（7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが2回鳴ります。）

■リバース警告ブザー

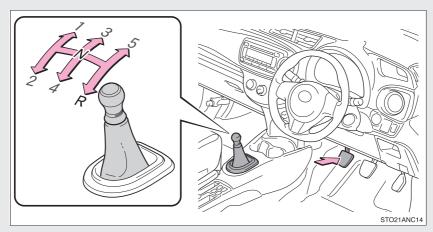
シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

⚠ 警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

マニュアルトランスミッション*

■ シフトレバーの動かし方

クラッチペダルをしっかり踏みシフトレバーをゆっくり操作します。
誤操作を防ぐため、5 から R へは直接入れることができません。
いったん N に入れてから R に入れます。

知識

■各シフトの速度限界

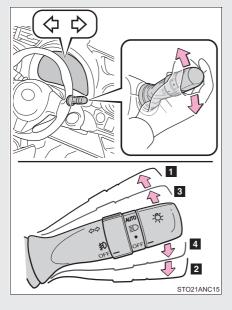
エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

(km/h)

シフト位置	最高速度
1	50
2	85
3	115
4	155

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

知識

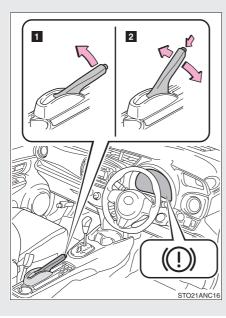
■作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

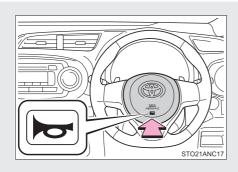
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 173)の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

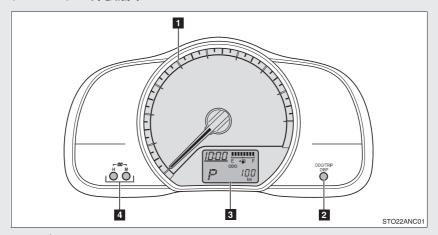
ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 59）

計器類

タコメーター非装着車

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 表示切りかえボタン

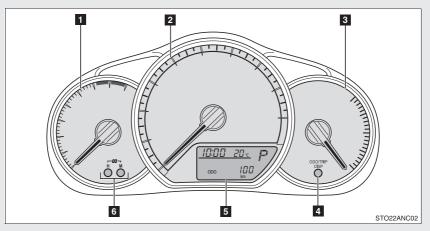
オドメーター／トリップメーター／アイドリングストップ時間＊／燃費表示などの切りかえができます。(→P. 137)

3 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 135

4 クロックセットボタン

→P. 220

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

タコメーター装着車

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／燃費表示などの切りかえができます。(→P. 137)

5 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 135

6 クロックセットボタン

→P. 220

⚠ 注意

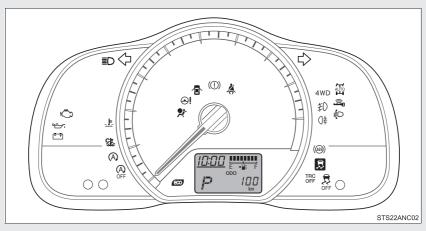
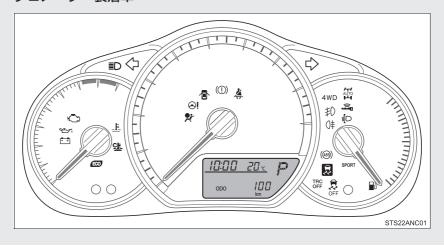
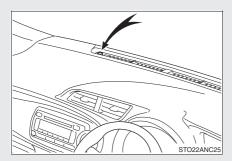
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーター装着車はタコメーターの針がレッドゾーン(エンジンの許容回転数をこえている範囲)に入らないようにしてください。
- この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯(→P. 293)が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 340)

表示灯／警告灯

メーター内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

■ メーター

タコメーター非装着車

タコメーター装着車

■ ダッシュボード（エンジンイモビライザーシステム装着車）

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 124）

ヘッドライト上向き表示灯（→P. 143）

*
フロントフォグライト表示灯（→P. 147）

*
リヤフォグライト表示灯（→P. 147）

＊※1
（点滅）
スリップ表示灯（→P. 167）

＊※1
VSC OFF 表示灯（→P. 167）

＊※1
TRC OFF
TRC OFF 表示灯（→P. 167）

＊※1
AUTO
4WD オートモード表示灯（→P. 164）

＊※1
ECO
エコドライブインジケーターランプ（→P. 97）

＊
SPORT
SPORT モード表示灯（→P. 119）

※2
低水温表示灯

＊※1
Stop & Start 表示灯（→P. 156）

＊※1
OFF
Stop & Start キャンセル表示灯（→P. 158）

＊
エンジンイモビライザーシステム表示灯（→P. 73）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

(緑色)

スマートエントリー&スタートシステム表示灯（→P. 109）

シフトポジション表示灯（→P. 117）

シフトポジション・シフトレンジ表示灯（→P. 120）

※1 作動確認のためにエンジン スイッチを“ON”にする（スマートエントリー& スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする（スマートエントリー& スタートシステム装着車）と点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 293)

(点滅)

※1 作動確認のためにエンジン スイッチを“ON”にする(スマートエントリー& スタートシステム非装着車)または“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする(スマートエントリー& スタートシステム装着車)と点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※3 点滅した場合は駆動系の発熱を示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※4 点灯した場合はシステムが非作動であることを示し、点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。

※5 黄色に点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。緑色に速く点滅した場合はステアリングロックが解除できていないことを示します。

＊:車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

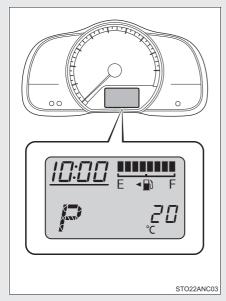
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

タコメーター非装着車

- 時計表示（→P. 220）

  時刻を表示します。

- 外気温表示（→P. 221）

  外気温を表示します。

- 燃料計

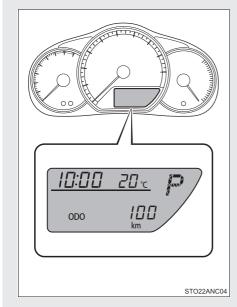
  燃料残量を示します。

- シフトポジション表示（→P. 117）

- トリップインフォメーション（→P. 137）

  オドメーター、トリップメーター、アイドリングストップ時間*や燃費など走行に関する情報を表示します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

タコメーター装着車

● 時計表示（→P. 220）

時刻を表示します。

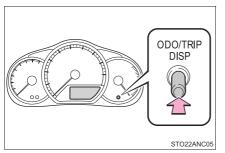
● 外気温表示（→P. 221）

外気温を表示します。

● シフトポジション表示*（→P. 117）

● トリップインフォメーション（→P. 137）

オドメーター、トリップメーターや燃費など走行に関する情報を表示します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

表示項目

タコメーター非装着車

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

● トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター B の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

※： 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● アイドリングストップ時間*

エンジン スイッチを“ON”から“LOCK”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)または“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションON モードからOFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にするまでのアイドリングストップ時間(Stop & Start システムによるエンジン停止時間)を通算で表示します。

● 総アイドリングストップ時間*

リセットしてからのアイドリングストップ時間(Stop & Start システムによるエンジンの停止時間)を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間表示中に表示切りかえボタンを1秒以上押します。

● 外気温

外気温を表示します。

－40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえボタンを押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを“LOCK”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)または“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

エンジンを始動してからの平均車速を表示します。

タコメーター装着車

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

● トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター B の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

※: 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえボタンを押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

エンジンを始動してからの平均車速を表示します。

エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面(オートマチック車)

Eco On

EcoOFF

エコドライブインジケーターランプの点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面表示中に表示切りかえボタンを押します。(→P. 97)

エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面を表示させるには､オドメーター表示中に表示切りかえボタンを 5 秒以上押します。

カスタマイズ後は表示切りかえボタンを 2 秒以上押して、オドメーター画面にもどります。

知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

・ 総アイドリングストップ時間
・ 平均燃費
・ 航続可能距離
・ 平均車速

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり､温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

警告

■低温時の画面表示について（オートマチック車）

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

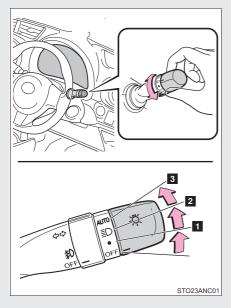
■低温時の画面表示について（マニュアル車）

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

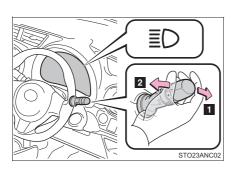
STO23ANC01

1 ● 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

2 ≣D 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 AUTO* ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

エンジンスイッチが"ON"(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)または"エンジン スタート ストップ"スイッチがイグニッションON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)のとき

ハイビームにする

STO23ANC02

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

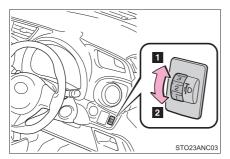
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

＊:車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル*

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

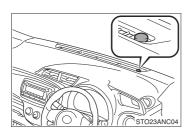
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF 車 (前輪駆動)	4WD 車 (4 輪駆動)
運転者	なし	0	0
運転者と 助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	1.5	2
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2	3
運転者	ラゲージルーム 満載時	4	4.5

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ライトセンサー*

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能（ライト自動点灯・消灯システム装着車）

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”で、ライトスイッチが OFF 以外の場合に働きます。

●ライトスイッチを OFF にしないまま、エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。

●再びライトを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードで、ライトスイッチが OFF 以外の場合に働きます。

●ライトスイッチを OFF にしないまま、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。

●再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

■オートレベリングシステム*

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライト・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能（ライト自動点灯・消灯システム装着車）

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態でヘッドライトまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのライトが自動消灯します。
次のいずれかをおこなった場合、節電機能は解除されます。

・エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしたとき
・ライトスイッチを操作したとき
・ドアを開閉したとき

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 358）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

フロントフォグライトスイッチ

1 OFF 消灯する

2 点灯する

2 運転するときに

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロント&リヤフォグライトスイッチ

1 OFF 消灯する

2 フロントフォグライトを点灯する

3 フロント&リヤフォグライトを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：リヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

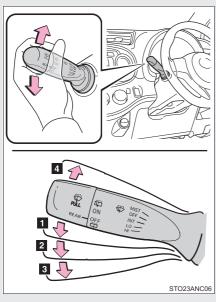
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

間欠ワイパー*

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

STO23ANC06

1 INT 間欠作動
2 LO 低速作動
3 HI 高速作動
4 MIST 一時作動

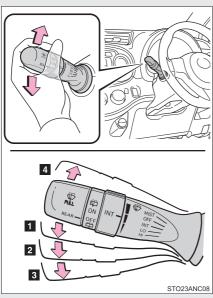
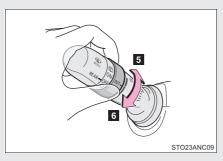
STO23ANC07

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

間欠時間調節式ワイパー*

INT を選択していると、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

1 INT 間欠作動
2 LO 低速作動
3 HI 高速作動
4 MIST 一時作動

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

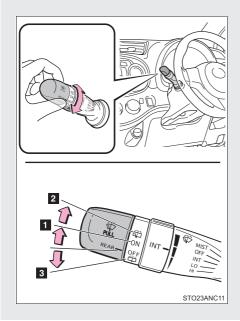
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

1 通常作動

2 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

3 ウォッシャー液を出す

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

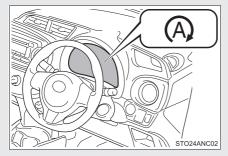
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

Toyota Stop & Start System (SMART STOP) *

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジン スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

■ D・S レンジアイドリングストップ

エンジンが停止する

シフトレバーをＤまたはＳで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止する

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。

エンジンが再始動する

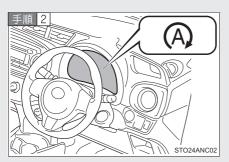
ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ P・N レンジアイドリングストップ

エンジンが停止する

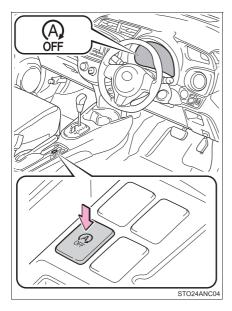
手順 1 ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる

シフトレバーをＰまたはＮにすると、エンジンが自動的に停止する（→P. 117）

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。

エンジンが再始動する

ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーを D・S・B・R のいずれかにすると、エンジンが再始動する（→P. 117）

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするにはスイッチを押す

Stop & Startキャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Startシステムによるエンジン停止中、Stop & Startキャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが作動可能状態にもどる）、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。

坂道発進補助機能（D・S レンジアイドリングストップ）

Stop & Start システムによって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・エンジンが十分暖まっているとき
・バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・ボンネットが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・シフトレバーが R・B 以外のとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・車内温度が高いときに、エアコンを使用しているとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき、および定期的な充電中
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・消費電力が大きいとき
・標高が高いとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。

・ポンピングブレーキをする、またはブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
・エアコンを使用しているとき、またはオンにしたとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき
・傾斜などで車両が動き出したとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・消費電力が大きいとき
・運転席ドアを開けたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき

●次の状況では、Stop & Start システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

・バッテリーが放電しているとき
・バッテリー交換などにより、バッテリー端子をはずしたあと
・エンジン冷却水温が低いとき

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジン スイッチを“LOCK”にまわして3秒以上保持してから“START”にまわす（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にして3秒以上経過してからイグニッション ON モードにする（スマートエントリー&スタートシステム装着車）ことによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■Stop & Start システム保護機能

大音量でオーディオを使用しているとき、Stop & Start システムを保護するためにオーディオを自動的にオフにする場合があります。

そのような状態になった場合は、エンジン スイッチを“LOCK”にまわして、３秒以上保持してから“ACC”または“ON”にまわす（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFF にして３秒以上経過してからアクセサリーモードまたはイグニッションON モードにする（スマートエントリー&スタートシステム装着車）ことによってオーディオを再開させてください。

■ボンネットを開けたときは（D・S レンジアイドリングストップ）

Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。エンジン スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）でエンジンを始動させてください。

■坂道発進補助機能について（D・S レンジアイドリングストップ）

●勾配が急な上り坂では、坂道発進補助機能が解除されたあと、車両が後退することがあります。このような場所では、パーキングブレーキをかけたり、ブレーキペダルを操作して発進してください。

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルの踏力がかわる場合がありますが、異常ではありません。

■Stop & Start システムについて

Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■警告ブザーについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。

●D・S レンジアイドリングストップ：運転席ドアが開いたとき

●ブレーキペダルを踏んでいない状態で、シフトレバーを P または N 以外にいれたとき

■Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンがオフにならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、ウインドウガラスが曇ったとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動してください。そしてを押してエアコンを作動させ、吹き出し口切りかえダイヤルを に切りかえて曇りを取ってください。
断続的にウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間表示と総アイドリングストップ時間表示

→P. 137

■バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。同等の性能のものと交換してください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）。
  エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、車から離れないでください（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）。
  エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
  エンジンが自動的に再始動するため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

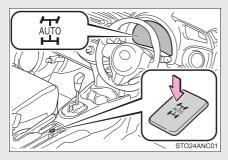
注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席・助手席シートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内の運転席・助手席シートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはインテリアライトスイッチがドアポジションのときにインテリアライトが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはインテリアライトスイッチがドアポジションのときにインテリアライトが点灯しないとき

4WD オートモードスイッチ*

走行安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行と 4WD（４輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

4WD オートモードを ON にするにはスイッチを押す

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

もう一度スイッチを押すと、解除されます。

知識

■4WD オートモード表示灯について

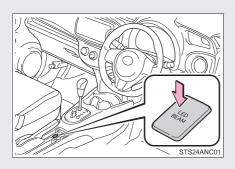
●4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が消灯し、4WD 警告灯が点滅します。（→P. 296）
警告灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま次の対応を行ってください。

・警告灯が消灯するまで車速を落とす。
・警告灯が消灯するまでエンジンをかけたまま停車する。

●4WDシステムに異常が発生したときには、4WDオートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの状態にかかわらず FF モードとなります。

■4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

LEDイルミネーションビーム*

オン / オフ

オンにするとフロントバンパーのLEDイルミネーションビームが点灯します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でLEDイルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト*

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）*

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）*

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ LSD（リミテッドスリップデファレンシャル）*

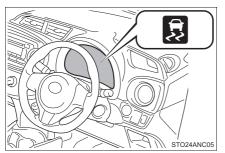
旋回時やすべりやすい路面で、片輪が空転したときに、もう一方の車輪の駆動力を確保します。

■ アクティブトルクコントロール 4WD *

4WD オートモードを ON にすると、通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（４輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

■ 坂道発進補助機能*

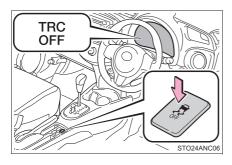
坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→P. 159）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

VSC・TRC が作動しているとき

VSC、TRC が作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。

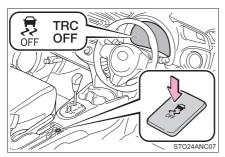
TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し３秒以上保持する

TRC OFF表示灯とVSC OFF表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

● エンジン始動時や発進直後や、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ・車体やハンドルに振動を感じる
- ・車両停止後もモーター音が聞こえる
- ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にした場合でも、エンジンをかけなおすと自動的にTRCと VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間またはくり返しハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（積雪路を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

⚠ 警告

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。
TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ABS・VSC・TRC・アクティブトルクコントロール 4WD が正常に作動しません。

- ４輪とも指定されたサイズで、同一のメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 指定された空気圧へ調整する（→P. 355）

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■アクティブトルクコントロール 4WD について

- ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性への寄与を目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- 滑りやすい路面での走行は慎重に行ってください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

  ・運転席足元
  ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  ・インストルメントパネル
  ・ダッシュボード
  ・フタのない小物入れ／トレイ

警告

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ エンジンオイル
  - ・ 冷却水
  - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

  タイヤは４輪とも同一サイズ･同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
  （タイヤについて →P. 242）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R 上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ・安全に作業できる場所で行う
- ・前 2 輪に取り付ける
- ・タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- ・取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー･同一銘柄･同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない。
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず４輪とも装着する。

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

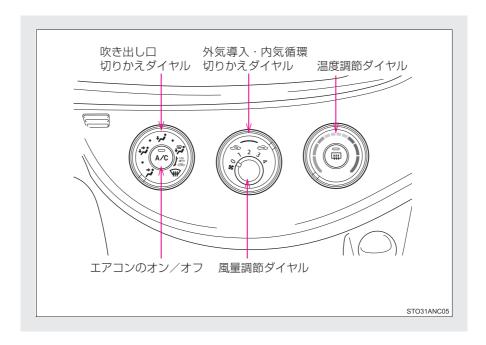
3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

マニュアルエアコン*

吹き出し口切りかえダイヤル
外気導入・内気循環切りかえダイヤル
温度調節ダイヤル
エアコンのオン／オフ
風量調節ダイヤル
STO31ANC05

エアコンの設定

■ 基本設定

手順 1 エアコンをオンにし、風量を調整するには、風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

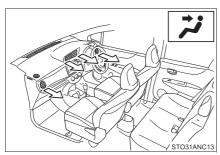
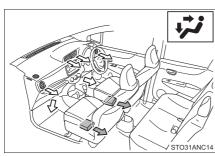
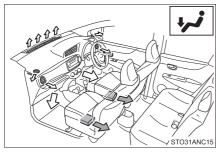
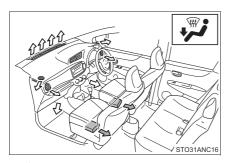
送風を止めるときはダイヤルを 0 の位置に合わせる

手順 2 温度設定を変更するには、温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

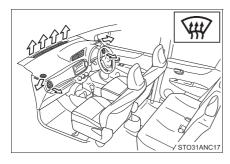
手順 3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわし吹き出し口を選ぶ

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

上半身に送風

上半身と足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

：寒冷地仕様車のみ

ガラスの曇りを取る

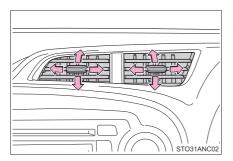
外気導入・内気循環切りかえダイヤルを の位置にします。

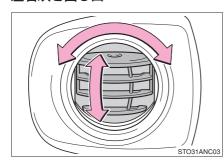
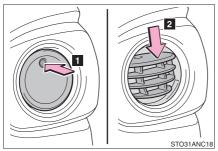
A/C を押してエアコンをオンにすると曇りが早く取れます。

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

外気導入・内気循環切りかえダイヤルを の位置にまわすと外気導入、 の位置にまわすと内気循環に切りかわります。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

風向きの調整

左右吹き出し口

風向きの調整

吹き出し口の開閉

1 開ける

2 閉じる

知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調節ダイヤルの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■外気温度が0℃付近のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■エアコンの臭いについて

● エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

オートエアコン*

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

フロントウインドウガラス曇り取り
風量調節ダイヤル
吹き出し口表示
温度調節ダイヤル
風量表示
設定温度表示
FRONT
REAR
A/C
AUTO
OFF
88.8
内外気切りかえ
エアコンのオン／オフ
吹き出し口切りかえ
オート設定
送風停止
STO31ANC04

オート設定を使うとき

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

送風を止めるときは OFF を押す

手順 2 設定温度をかえるには、温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

手順 3 A/C を押す

ボタンを押すたびにエアコンのオン／オフが切りかわります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

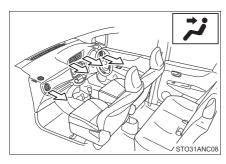
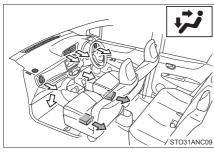
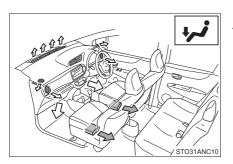
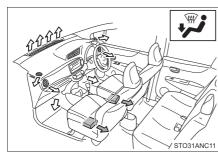
■ 基本設定

手順 1 風量をかえるには、風量調節ダイヤルを右(増)か左(減)へまわす

送風を止めるときは OFF を押す

手順 2 設定温度をかえるには、温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。選択した吹き出し口に従って次のように送風されます。

上半身に送風

上半身と足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

：寒冷地仕様車のみ

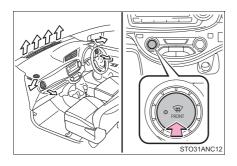
■外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

STO31ANC12

を押す。

エアコンが作動します。外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわります。

曇りが取れたら再度を押すと、前のモードにもどります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

STO31ANC02

風向きの調整

左右吹き出し口

STO31ANC03

風向きの調整

吹き出し口の開閉

1 開ける

2 閉じる

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

●外気温が高いとき、最大冷房時に内気循環に切りかわる

● AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■外気温度が0℃付近のとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

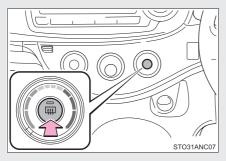
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

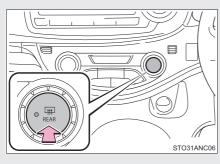
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウガラスの曇りを取るときに使用ください。

マニュアルエアコン装着車

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

オートエアコン装着車

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

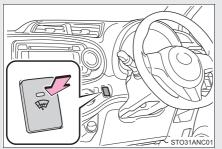
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

フロントワイパーデアイサー＊

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

警告

■作動中の警告

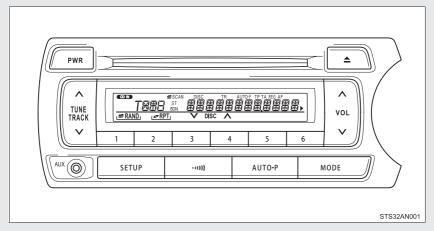
フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオの種類

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

CD プレーヤー、AM/FM ラジオ

STS32AN001

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 194
CD プレーヤーの使い方	P. 196
快適に聞くために	P. 201
AUX 端子の使い方	P. 202

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

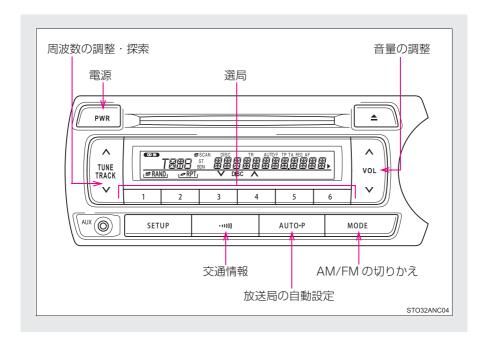
注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■**オーディオの取り扱いについて**

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 [TUNE TRACK] の “∧”（高い周波数）または “V”（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ [1] ～ [6] を “ピッ” と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

[AUTO•P] を “ピッ” と音が鳴るまで押す

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると “ピッピッ” と音が鳴ります。

交通情報を受信する

[·ıııı] を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ [·ıııı] について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき [·ıııı] を “ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を [·ıııı] に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

● [·ıııı] を 押して、ラジオを受信しているときは、[TUNE TRACK] ・ [1] ～ [6] ・ [AUTO·P] を操作しても、周波数は切りかわりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは

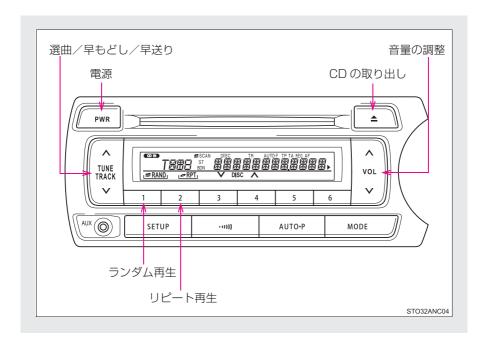
[1] ～ [6] に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

● [AUTO·P] を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。（→P. 203）

CD プレーヤーの使い方

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

の “Λ”（次曲）または “V”（前曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし・早送りする

早もどし・早送りするには、 の“Λ”（早送り）または“V”（早もどし）を押し続けます。

リピート（RPT）再生する

（RPT）を押す

ランダム（RAND）再生する

（RAND）を押す

もう一度押すまで無作為な順序で曲が再生されます。

知識

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 [1] （RAND）または [2] （RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

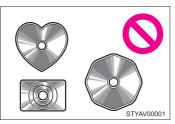
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

⚠ 注意

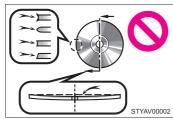
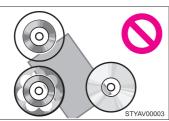
■使用できない CD・アダプター

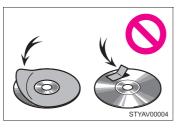
次のような CD・8cm CD アダプター・Dual Disc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

STYAV00001

●直径12cmまたは8cm の円形以外のCD

STYAV00002

●低品質または変形している CD

STYAV00003

●記録部分が透明または半透明の CD

STYAV00004

●セロハンテープ・シール・CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

⚠ 注意

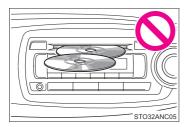
■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

●CD 挿入口に CD 以外のものを入れない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

●CD は直射日光を避けて保管する

●CD プレーヤーを分解しない

●一度に 2 枚以上の CD を挿入しない

快適に聞くために

1 SETUP を押してモードを表示させる

2 TUNE TRACK の“∧”または“V”を押して音質と音量バランスを変更する

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

STO32ANC06

設定を変更するには

■ 音質モードの切りかえ

SETUP を押すごとに次のように切りかわります。

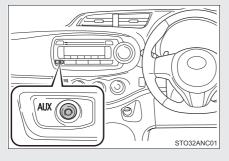
FAD → BAS → TRE → BAL

■ 音質の調整

TUNE TRACK の“∧”または“V”を押して音質のレベルを調整します。

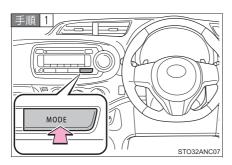
音質モード	表示	レベル	“V”を押す	“∧”を押す
低音	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音	TRE	-5 ～ 5		
前後音量バランス	FAD	F7 ～ R7	後側大	前側大
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

AUX 端子の使い方*

ポータブルオーディオプレーヤーなどの機器を接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。

ポータブルオーディオプレーヤーなどを接続する。

市販のミニプラグを使用して、接続する機器の音声出力端子とAUX端子とを接続します。

接続する機器の電源がオフの状態で接続してください。

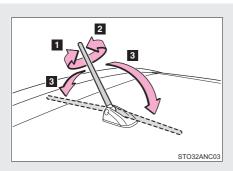
使用するときは

MODE を押して AUX を選択する。

手順 2 接続した機器の電源をオンにし、再生を開始する。

操作方法は、接続する機器の取り扱い説明書を参照してください。

音量・音質は、接続した機器および車両の を操作して調整します。

使用しないときは、接続した機器側で停止操作を行い、電源をオフにします。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アンテナ

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立ててください。

⚠ 注意

■自動洗車機にかけるときは

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

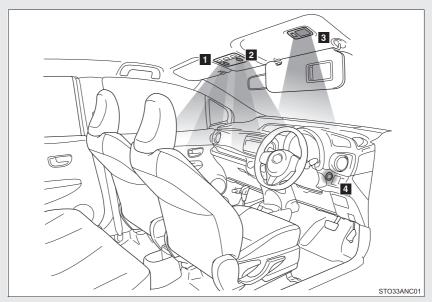
■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■洗車時などアンテナを取りはずしたときは

アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおり取り付けてください。

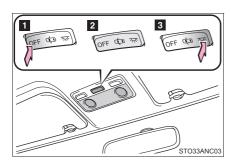
室内灯一覧

1 インテリアライト（→P. 205）

2 パーソナルライト（→P. 205）

3 バニティライト*（→P. 206）

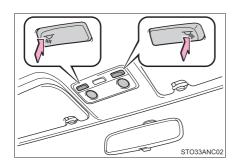
4 “エンジン スタート ストップ” スイッチ照明*

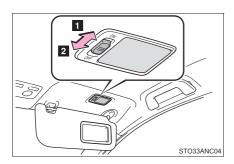
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インテリアライト

1 ライトを消灯する

2 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる

3 ライトを点灯する

パーソナルライト

ライトを点灯・消灯する

バニティライト*

1 ライトを点灯する

2 ライトを消灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■作動条件（バニティライト装着車）

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチがドアポジションのときに、インテリアライト・エンジン スイッチ照明*が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

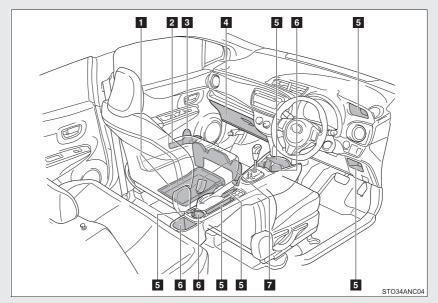
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 358)

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

収納装備一覧

1 助手席シートアンダートレイ*
2 ドアポケット
3 ボトルホルダー
4 グローブボックス
5 小物入れ*
6 カップホルダー
7 買い物アシスト*

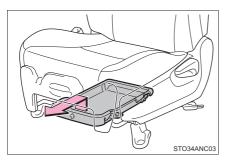
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

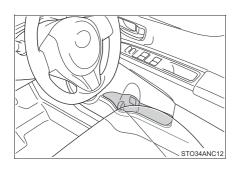
⚠ 警告

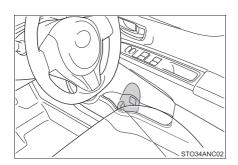
■**収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

助手席シートアンダートレイ*

トレイを上に持ち上げ、前に引き出す。

ドアポケット

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボトルホルダー

知識

■ボトルホルダーについて

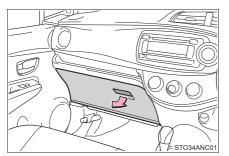
●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

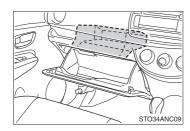
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

グローブボックス

グローブボックスを開けるには、レバーを引く

知識

■グローブボックス内取扱書入れについて

グローブボックス内の上段に取扱書入れがあります。

⚠ 警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

小物入れ

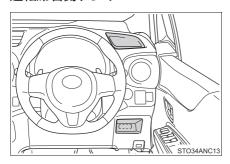
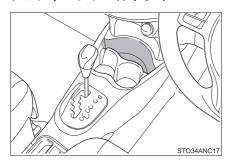
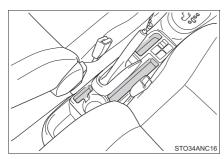
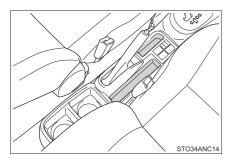
運転席右側トレイ

STO34ANC13

フロントコンソールトレイ

STO34ANC17

センターコンソールトレイ（FF 車）

STO34ANC16

センターコンソールトレイ（4WD 車）

⚠ 警告

■収納してはいけないもの

トレイ内に転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

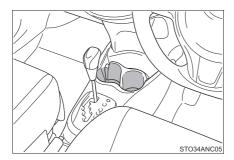
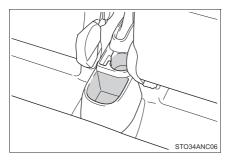
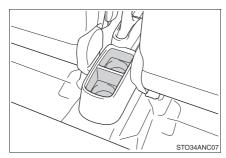
フロント

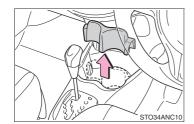
STO34ANC05

リヤ（FF 車）

STO34ANC06

リヤ（4WD 車）

STO34ANC07

知識

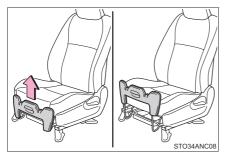
■フロントカップホルダーの仕切りについて

仕切りをはずすことができます。

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

買い物アシスト*

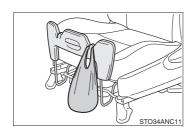
助手席シートクッションの上に置いた小物（ハンドバッグなど）が急ブレーキをかけたときにシートの下に落下するのを防止します。

買い物アシストを上に持ち上げて使用します。

しっかりと固定されていることを確認してください。

知識

■フックについて

袋などをかけることができます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■走行中の警告

買い物アシストを上げた状態で、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

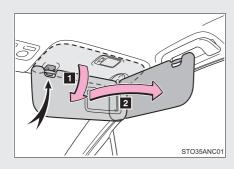
注意

■買い物アシストを使うときは

- 買い物アシストを上げた状態で、約 10kg 以上の荷物を置かないでください。シートが破損するおそれがあります。
- シートから落下したときに破損するおそれのあるものは置かないでください。
- 使用しないときや、シートの前後位置を調整するときは、買い物アシストを格納してください。

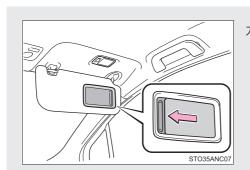
■買い物アシストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

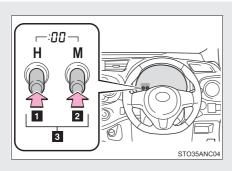
サンバイザー*

1 前方をさえぎるには、バイザーをおろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

バニティミラー*

カバーをスライドして開ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

時計

1 “時” を調整する

2 “分” を調整する

3 “分” を 00 にする※

クロックセットボタンを同時に 1 秒以上押します。

※（例） 1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ON” のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

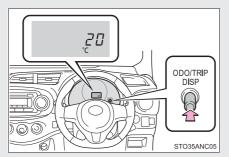
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

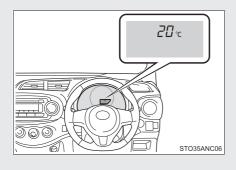
■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

外気温度表示

-40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

タコメーター非装着車

表示切りかえボタンを押し、外気温度表示を表示させます。(→P. 137)

タコメーター装着車

知識

■外気温度が表示されるとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

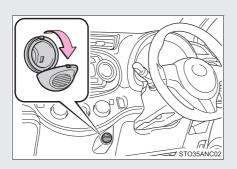
●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■--- が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

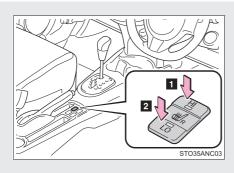
ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A をこえないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター*

1 HI（強）

インジケーター（黄）が点灯します。

2 LO（弱）

インジケーター（緑）が点灯します。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■使用しないときは

スイッチを中立の位置にしてください。インジケーターが消灯します。

警告

■やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。
  - ・乳幼児・お子さま・年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
  シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■シートヒーターの故障を防ぐために

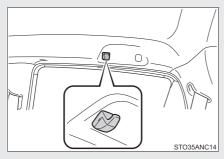
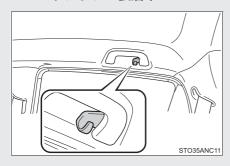
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチを中立の位置にもどし、作動表示灯が消灯したことを確認してください。

コートフック*

リヤの運転席側にはコートフックがついています。

アシストグリップ非装着車

アシストグリップ装着車

⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

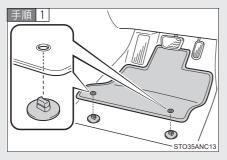
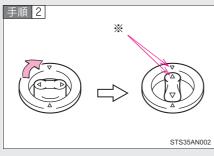
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわしてフロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。

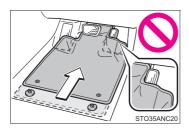
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

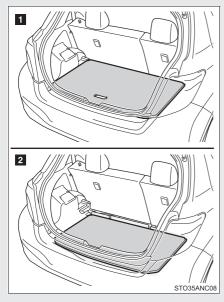
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■**運転席にフロアマットを敷くときは**

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■**運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがP(オートマチック車) またはN (マニュアル車) の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

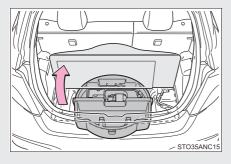
ラゲージルーム内装備

■ デッキボード*

1 上段

2 下段（FF 車のみ）

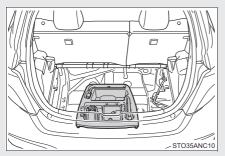
デッキボードをフロアボードの上に置くことで、下段の位置で使用できます。

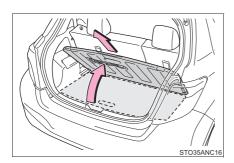
■ ラゲージアンダートレイ*

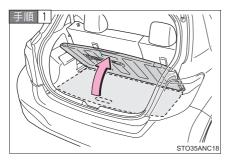
FF 車（前輪駆動）

三角表示板※などを収納することができます。

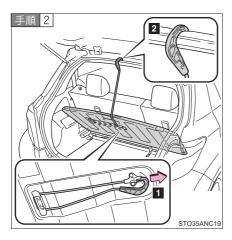
※ 三角表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

4WD 車（4輪駆動）

小物などを収納することができます。

デッキボード*を取りはずすときは

デッキボードを持ち上げ、手前に引いて取りはずす。

デッキボード*の留め方について

デッキボードを持ち上げる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

1 デッキボード裏面のフックを取りはずす

2 フックをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する

⚠ 警告

■**デッキボードを操作するときは**

荷物を載せた状態で操作しないでください。
指をはさんだり、思わぬ事故につながるけがをするおそれがあります。

■**デッキフックを使用しないときは**

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

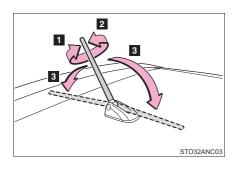
お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）。

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラー*が引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

■アルミホイール*

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

●光沢を失うおそれがあるため、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ **注意**

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。

● 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

● 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る

● スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける

● 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス*について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉を繰り返さないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■**車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 76)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の警告をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを掃除するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

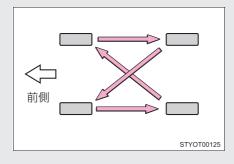
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

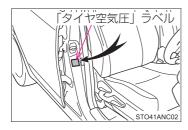
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

標準タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)	
	前輪	後輪
165/70R14 81S	250 (2.5)	240 (2.4)
175/65R15 84H	230 (2.3)	220 (2.2)
195/50R16 84V	220 (2.2)	200 (2.0)
205/45R17 84W	220 (2.2)	220 (2.2)

スペアタイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)
T125/70D15 95M	420 (4.2)
T125/70D16 96M	

■タイヤ空気圧の点検

● 1ヶ月に1回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。

●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

● 195/50R16 84V、205/45R17 84W 装着車：低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または、長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（195/50R16 84V、205/45R17 84W 装着車）

装着されているタイヤは、一般走行でのグリップ性能を重視して作られています。雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ性能がより低下します。必ず冬用タイヤかタイヤチェーン（195/50R16 84V 装着車のみ）を使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

⚠ 警告

■点検、交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

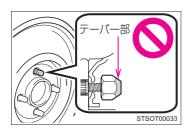
- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故になるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

■低偏平タイヤについて（195/50R16 84V、205/45R17 84W 装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- ●適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- ●段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

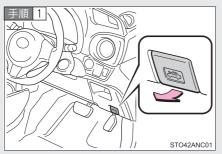
■走行中に空気もれが起こったら

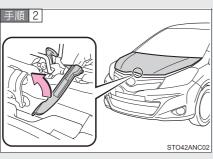
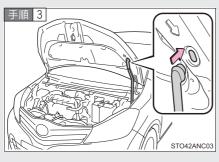
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

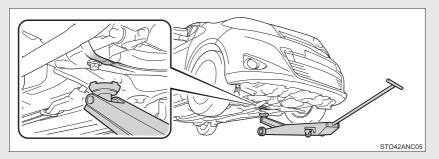
注意

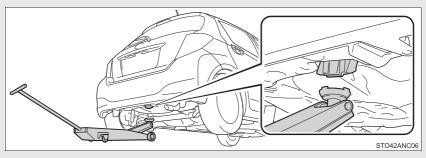
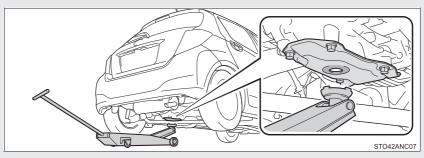
■**ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

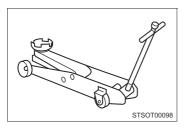
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

FF 車（前輪駆動）

4WD 車（4 輪駆動）

⚠ 警告

■車両を持ち上げる時には

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

STSOT00098

● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

● ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用する

● 車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

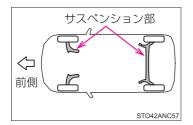
● ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

● ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

● 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

● 平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーをP、マニュアル車はシフトレバーをRにする

● ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

警告

●サスペンション部などで、ジャッキアップしないでください。
車両が損傷します。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

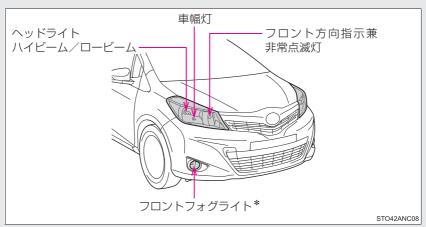
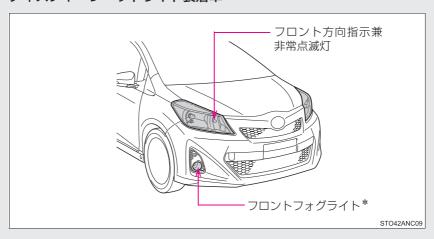
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

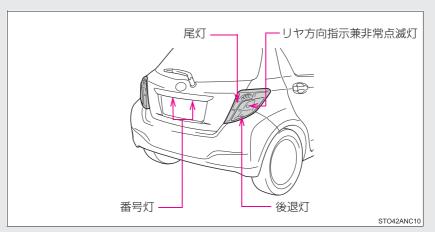
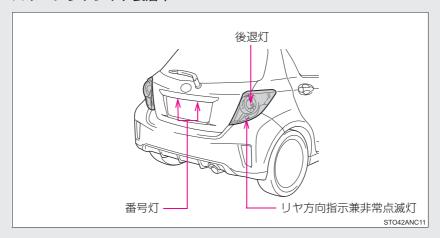
■ 電球の用意

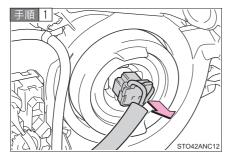
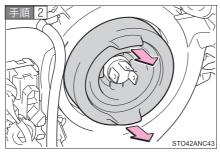
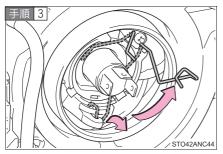
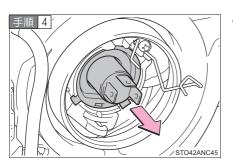
切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 356）

■ フロントのバルブ位置

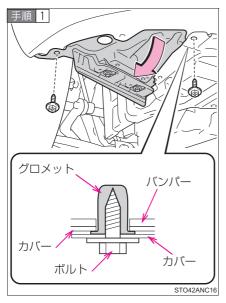
ハロゲンヘッドライト装着車

ディスチャージヘッドライト装着車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

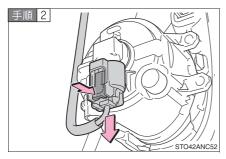
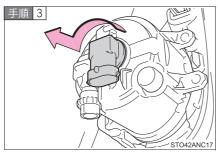
スポーツリヤライト非装着車

スポーツリヤライト装着車

電球交換のしかた

■ヘッドライトハイビーム／ロービーム（ハロゲンヘッドライト装着車）

ボンネットを開けて、コネクターを取りはずす

ゴムカバーを取りはずす

留め金をはずす

電球を取りはずす

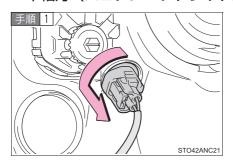
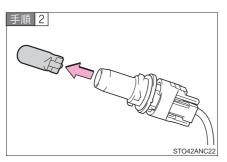
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト*

フォグライト下側カバーのボルトをはずし、カバーをめくる

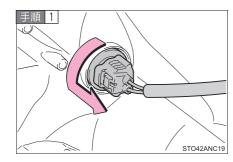
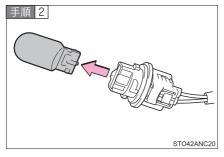
グロメットを紛失しないように注意してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

コネクターを取りはずす

ソケットを取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■車幅灯（ハロゲンヘッドライト装着車）

ボンネットを開けて、ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

ボンネットを開けて、ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

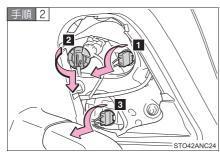
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯・尾灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯（スポーツリヤライト非装着車）

手順 1

バックドアを開け、カバーを取りはずす

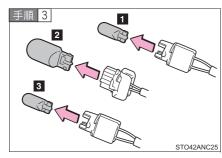
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

手順 2

ソケットを取りはずす

1 尾灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

3 後退灯

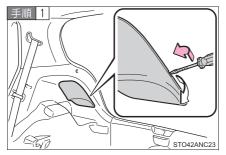
手順 3

電球を取りはずす

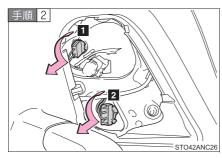
1 尾灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

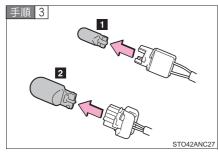
3 後退灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯（スポーツリヤライト装着車）

バックドアを開け、カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

ソケットを取りはずす

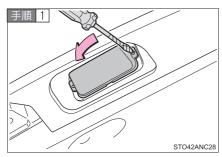
1 後退灯

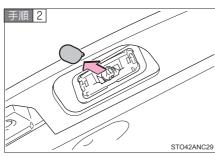
2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

電球を取りはずす

1 後退灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム（ディスチャージヘッドライト装着車）
- ヘッドライトハイビーム（ディスチャージヘッドライト装着車）
- 車幅灯（ディスチャージヘッドライト装着車）
- サイド方向指示灯兼非常点滅灯
- LED イルミネーションビーム*
- 制動灯（スポーツリヤライト非装着車）
- 制動灯／尾灯（スポーツリヤライト装着車）
- ハイマウントストップライト
- リヤフォグライト*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ディスチャージヘッドライト*の作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ライトについて

制動灯（スポーツリヤライト非装着車）・制動灯／尾灯（スポーツリヤライト装着車）・ハイマウントストップライト・LED イルミネーションビームは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ライト内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するときは

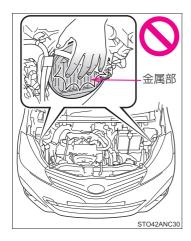
→P. 271

警告

■電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は電球・バラストが高温になっているため、交換しないでください。
  やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

●ディスチャージヘッドライト装着車：
ロービーム点灯中および消灯直後はヘッドライト裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

■ディスチャージヘッドライトについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に３万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

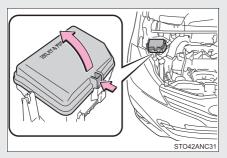
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

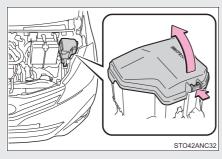
ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

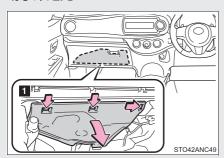
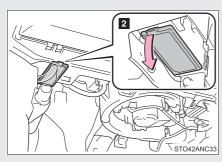
手順 1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを“LOCK”にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

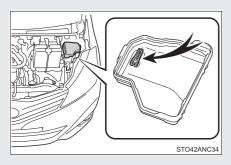
エンジンルーム（ヒューズボックス A）*︎

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

エンジンルーム（ヒューズボックス B）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

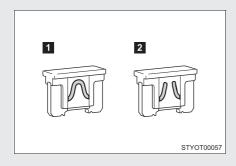
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

助手席足元

1 足元のカバー*を取りはずす

2 カバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する（→P. 266）

手順 4 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

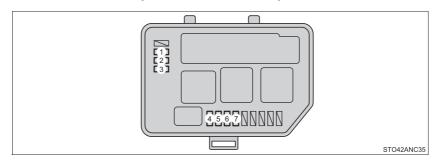
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

2 ヒューズ切れ

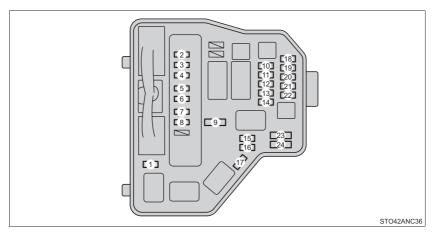
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）*

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EU-DRL	15 A	未使用
2	S-HORN	10 A	未使用
3	H-LP MAIN	7.5 A	ヘッドライト
4	H-LP RH HI	10 A ※1	未使用
		10 A ※2	右側ヘッドライト（ハイビーム）
5	H-LP LH HI	10 A ※1	未使用
		10 A ※2	左側ヘッドライト（ハイビーム）
6	H-LP RH LO	10 A ※1	未使用
		15 A ※2	右側ヘッドライト（ロービーム）
7	H-LP LH LO	10 A ※1	未使用
		15 A ※2	左側ヘッドライト（ロービーム）

※1：ハロゲンヘッドライト装着車
※2：ディスチャージヘッドライト装着車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ID/UP	7.5 A	EFI システム
2	EFI MAIN	20 A	EFI システム、Stop & Start システム
3	EFI NO.3	7.5 A	EFI システム
4	HORN	10 A	ホーン
5	EFI NO.2	10 A	EFI システム
6	IG2	10 A	スマートエントリー&スタートシステム、エアバッグシステム、ステアリングロック、制動灯、EFI システム、室内灯
7	IGN	15 A	EFI システム
8	MET	7.5 A	メーター
9	SPARE	—	予備ヒューズ
10	ST	30 A	スターター
11	H-LP LH	10 A ※1	左側ヘッドライト
	AMP	15 A ※2	未使用
12	H-LP RH	10 A ※1	右側ヘッドライト
	D/L NO.2	25 A ※2	未使用

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
13	D.C.C	30 A	DOME、ECU-B NO.1、ECU-B NO.2
14	STR LOCK	20 A	ステアリングロック
15	ECU-B NO.1	5 A	メインボデー ECU
16	DOME	15 A	室内灯、オーディオ、ナビゲーションシステム
17	—	—※1	未使用
	MIR-HTR	10 A ※2	未使用
18	ETCS	10 A	EFI システム
19	HAZ	10 A	非常点滅灯
20	AM2	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、EFI システム、Stop & Start システム
21	ECU-B NO.2	5 A	メーター、オートエアコン
22	ALT-S	7.5 A	未使用
23	SPARE	—	予備ヒューズ
24	SPARE	—	予備ヒューズ

※1：ハロゲンヘッドライト装着かつライト自動点灯・消灯システム非装着車

※2：ハロゲンヘッドライトとライト自動点灯・消灯システム装着車、ディスチャージヘッドライト装着車

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL NO.2	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、リヤフォグライト、EFI システム、室内灯、手動光軸調整ダイヤル
2	PANEL	5 A	室内灯、シフトロック、メーター、リヤウインドウデフォッガー、非常点滅灯、4WD システム、VSC、手動光軸調整ダイヤル、オーディオ、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチック、エアコン
3	DOOR R/R	20 A	パワーウインドウ
4	DOOR P	20 A	パワーウインドウ
5	ECU-IG NO.1	5 A	メインボデー ECU、冷却ファン、リヤウインドウデフォッガー、電動パワーステアリング
6	ECU-IG NO.2	5 A	VSC、オートレベリングシステム、Stop & Start システム
7	A/C	7.5 A	エアコン、リヤウインドウデフォッガー、フロントワイパーデアイサー
8	GAUGE	10 A	後退灯、オーディオ、EFI システム、4WD システム、シフトロック
9	WASHER	15 A	ウォッシャー
10	WIPER	20 A	フロントワイパー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	WIPER RR	15 A	リヤワイパー
12	DOOR R/L	20 A	パワーウインドウ
13	DOOR	20 A	パワーウインドウ
14	CIG	15 A	アクセサリーソケット、シガレットライター
15	ACC	5 A	バニティライト、メインボデー ECU、電動ドアミラー、オーディオ、ナビゲーションシステム、シフトロックシステム、Stop & Start システム
16	D/L	25 A	ドアロック
17	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
18	TAIL	20 A	車幅灯、尾灯、番号灯
19	FOG RR	7.5 A	未使用
20	STOP	7.5 A	EFI システム、スマートエントリー&スタートシステム、VSC、制動灯、ハイマウントストップライト、シフトロック
21	AM1	7.5 A	エンジンスイッチ
22	FOG FR	15 A	フロントフォグライト
23	SHADE	25 A	未使用
24	4WD	7.5 A	4WD システム
25	S-HTR/WELCAB	10 A	シートヒーター、ウェルキャブ

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 252)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

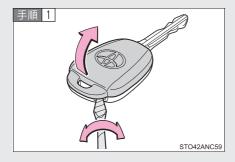
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

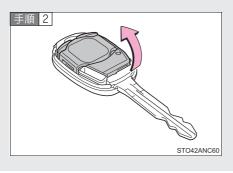
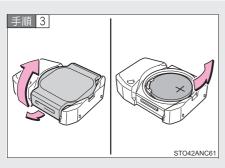
● マイナスドライバー

● リチウム電池

・ CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
・ CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

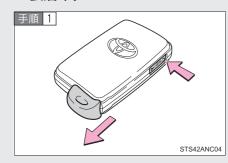
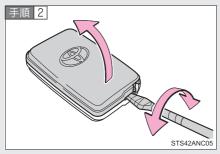
■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

モジュールを取り出す

モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

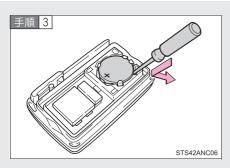
新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

手順 3

STS42ANC06

消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態が起こります。

- ●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンが作動しない
- ●作動距離が短くなる

■リチウム電池の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

- ●スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR2016
- ●スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR1632

警告

■取りはずした電池と部品について

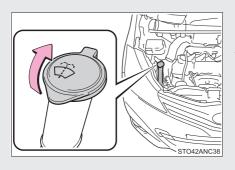
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

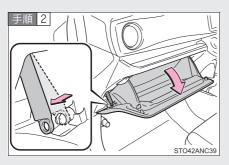
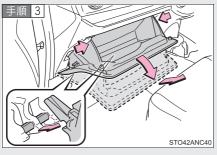
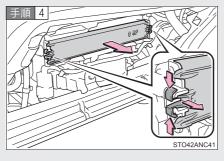
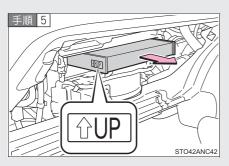
■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを“LOCK”にする
スマートエントリー＆スタートシステム装着車：
“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする

グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

交換：20,000km [10,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

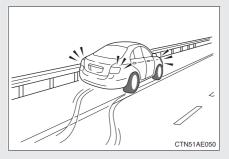
トラブルが起きたら 5

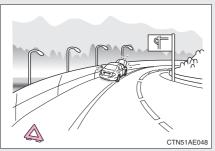
5-1. まず初めに

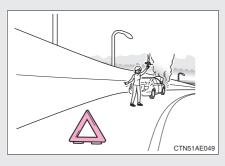
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

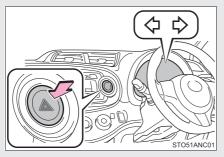
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 281)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 282)

非常点滅灯

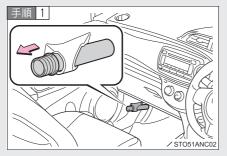
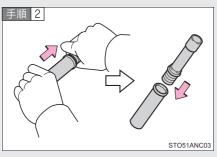
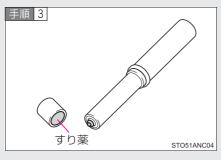
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、新しいものに交換してください。

⚠ 警告

■発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

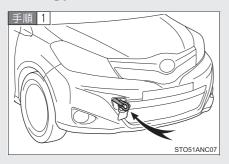
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

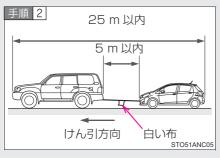
●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

スマートエントリー & スタートシステム非装着車：
エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを “ACC” または “ON” にしてください。
スマートエントリー & スタートシステム装着車：
エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

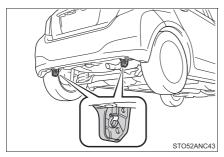
けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

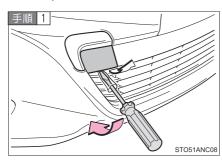
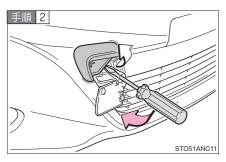
● エンジンはかかるが車が動かない

● 異常な音がする

緊急時のけん引

STO52ANC43

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

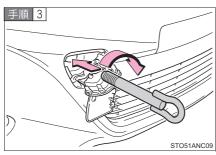
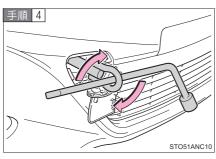
けん引フックの取り付け方

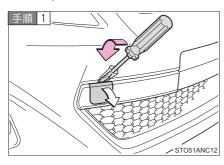
フロントバンパー A

STO51ANC08

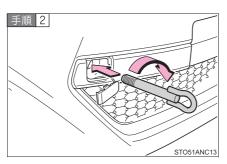
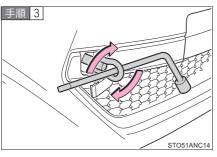
マイナスドライバーを使ってフタをはずす

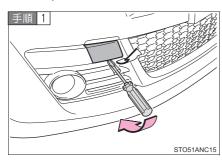
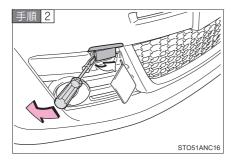
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

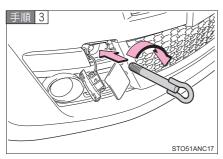
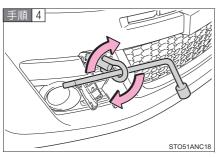
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

フロントバンパーB

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

フロントバンパー C

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 300, 311

⚠ 警告

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは、必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●スマートエントリー & スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを“LOCK”にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●スマートエントリー & スタートシステム装着車：
“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■４輪駆動車をけん引するときは（４輪駆動車）

４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけ持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。

■Stop & Start システム装着車をけん引するときは（Stop & Start システム装着車）

4 輪すべてを接地した状態でけん引しないでください。4 輪とも持ち上げた状態で運搬するか、前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引してください。

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

手順 1 エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にする

手順 2 エンジンを再始動する

スマートエントリー&スタートシステム装着車

手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■**エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動してることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯 エンジン冷却水温の異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常（VSC 装着車）
!	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS の異常
（点灯）	**スリップ表示灯*＊*** ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 （VSC・TRC 作動時は点滅します。→P. 167）
4WD （点灯）	**4WD 警告灯＊** 4WD システムの異常 （点滅したとき →P. 296）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯＊ 自動光軸調整システムの異常
（点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯＊** Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。→P. 158）
（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー＆スタートシステム表示灯＊（警告ブザー＊）** ・スマートエントリー＆スタートシステムの異常 ・ステアリングロックシステムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 **(警告ブザー)** ※1 いずれかのドアまたはバックドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
E F (タコメーター非装着車) (点滅)	**燃料残量警告灯** 燃料の残量が 5.2 L 以下になった	燃料を補給する
(タコメーター装着車)	**燃料残量警告灯** 燃料の残量が 6.3 L 以下になった	
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 **(警告ブザー)** ※2 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
4WD (点滅)	**4WD 警告灯*** 駆動系の発熱 (点灯のみのとき →P. 294)	スピードを落として低速走行するまたはエンジンをかけたまま停車する。

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときにブザーが鳴ります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席または助手席シートベルトが非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。それから運転席または助手席シートベルトが非着用のまま 30 秒経過すると、警告ブザーが断続的に 30 秒間鳴ります。その後警告ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
連続音	連続音	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** シフトレバーがＰ以外の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをＰにする ・電子キーを車内にもどす
1回	3回	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** シフトレバーがＰの状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに、運転席ドアが開閉され電子キーを持ち出した	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあと、電子キーを車内から持ち出す
			スマートエントリー&スタートシステム表示灯 “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	連続音（10秒間）	（黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出してスマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1回	—	（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯してエンジンを始動する
9回	—	（黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
1回	—	（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する（→P. 272）
1回	—	（15 秒間緑色に速点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** ステアリングロックが解除できなかった	ステアリングロックを解除する（→P. 114）

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	—	(30秒間黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** ・メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが2回連続で続いた	ブレーキペダルを踏みながら電子キーで、“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる (→P. 332)

知識

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

電圧が低い、または低下した場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

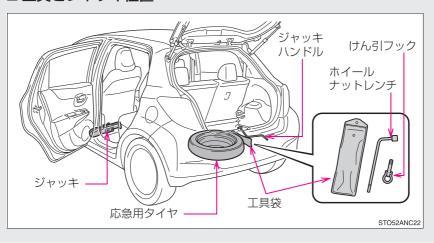
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

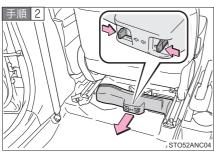
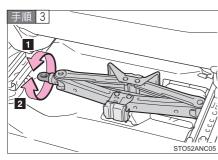
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

(タイヤについての詳しい説明は、P. 242 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

ジャッキの取り出し方

助手席シートをいちばん前に移動する

ノブを内側につまみ、手前に引いて、カバーを取りはずす

1 締まる

2 ゆるむ

応急用タイヤの取り出し方

FF 車（前輪駆動）

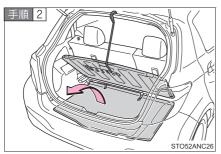
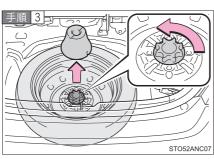
手順 1 デッキボード*を持ち上げ、留める（→P. 231）

手順 2

STO52ANC26

フロアボードを取りはずす

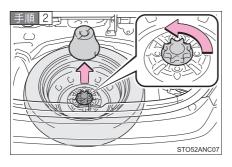
手順 3

STO52ANC07

クッションを取りはずし、留め具を取りはずす

4WD 車（4 輪駆動）

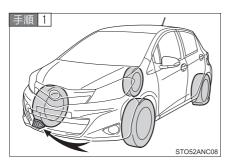
手順 1 デッキボードを持ち上げ、留める（→P. 231）

手順 2

STO52ANC07

クッションを取りはずし、留め具を取りはずす

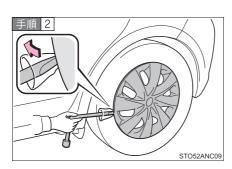
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パンクしたタイヤの交換

STO52ANC08

輪止め※をする

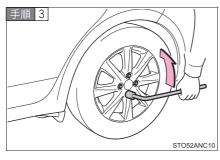
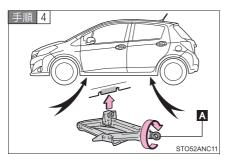
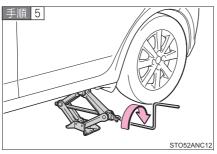
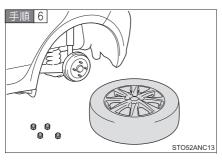
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

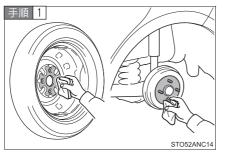
STO52ANC09

ホイールキャップをはずす＊

＊：スチールホイールのみ

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

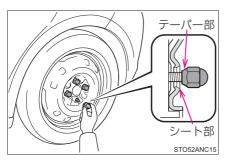
STO52ANC10

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

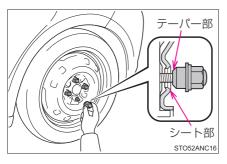
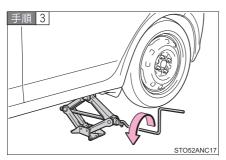
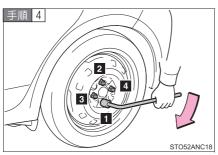
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

手順 1 ホイール接触面、ボルトやナットのねじ部、ナットのテーパー部などの汚れや異物を取り除く

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイール装着車

スチールホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

アルミホイール装着車

アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 355)

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する

手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■応急用タイヤを収納するときは

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC *
- TRC *
- ナビゲーションシステム*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム*

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない

●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる

●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない

●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない

●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない

●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない

●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない

●車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■**タイヤ交換について**

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P. 245)

⚠ 注意

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■**応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■**応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

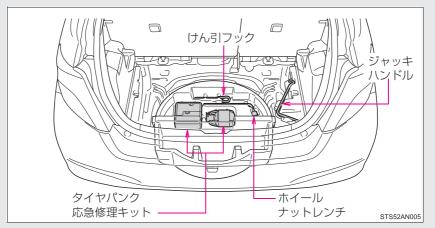
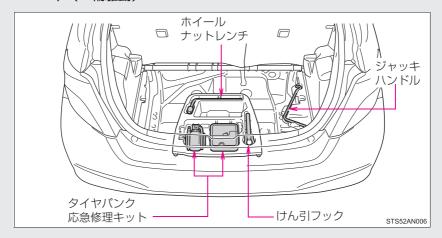
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液１本につき、応急修理できるタイヤは １ 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.314）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

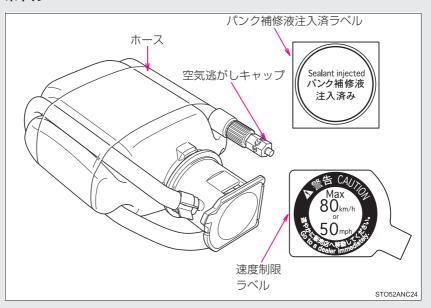
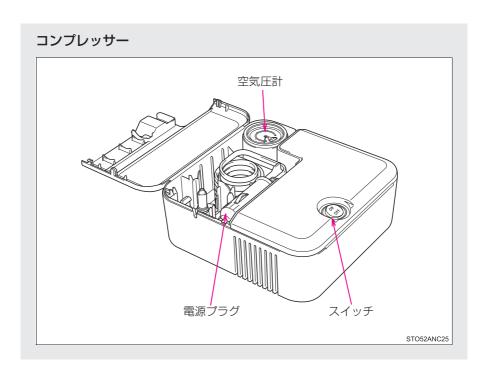
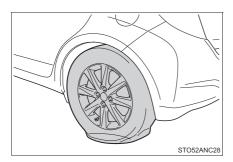
■ 応急修理する前に

- ● 地面が固く平らな場所に移動する
- ● パーキングブレーキをしっかりかける
- ● シフトレバーを P に入れる
- ● エンジンを停止する
- ● 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

FF 車（前輪駆動）

4WD 車（4 輪駆動）

■ タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称

ボトル

コンプレッサー

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する

- タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- パンク補修液が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■次のときは、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに４ mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

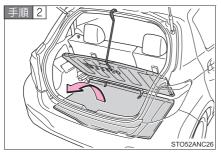
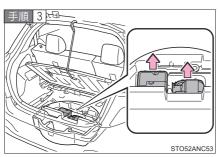
●２本以上のタイヤがパンクしているとき

●１本のタイヤに２箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

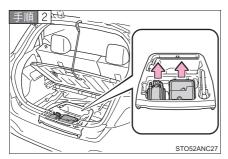
●補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

FF 車（前輪駆動）

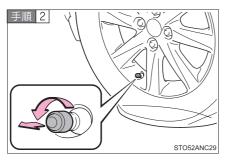
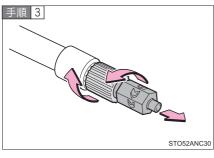
手順 1 デッキボード*を持ち上げ、留める（→P. 231）

フロアボードを取りはずす

タイヤパンク応急修理キットを取り出す

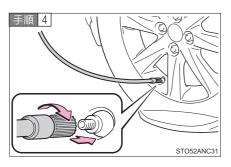
4WD 車（4 輪駆動）

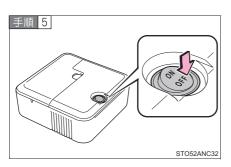
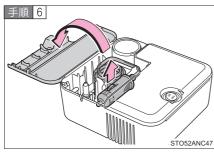
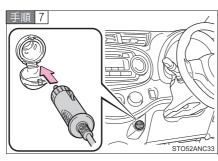
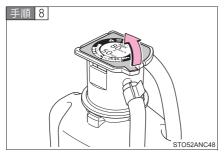
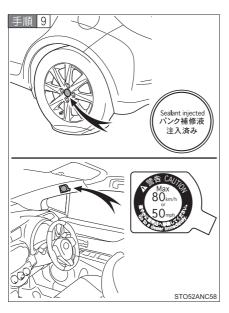
手順 1 デッキボードを持ち上げ、留める（→P. 231）

タイヤパンク応急修理キットを取り出す

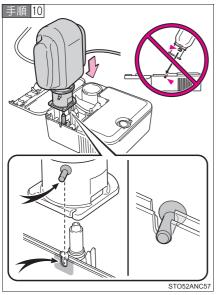
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

応急修理するときは

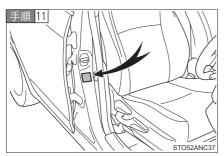
手順 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 9へ)空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する

コンプレッサーの電源プラグをはずす

コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む(→P. 223)

速度制限ラベルをはがす

付属のラベル２枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

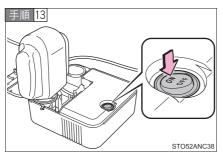
ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

ボトルをコンプレッサーに接続する

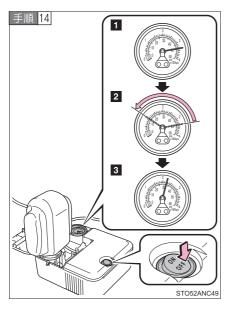
左の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

手順 11

タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 355)

手順 12 エンジンを始動する

手順 13

コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、パンク補修液と空気を充填する

手順 14

空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

1 スイッチ"ON"直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

2 1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になる

3 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを"OFF"にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

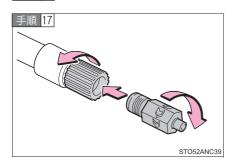
35分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 322、355）

手順 15 コンプレッサーのスイッチが"OFF"であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

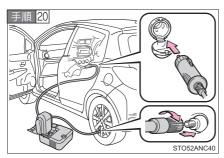
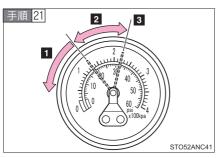
ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

手順 16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

手順 17

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

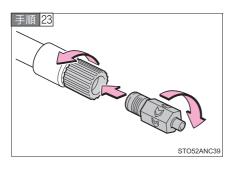
手順 18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

手順 19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

コンプレッサーのスイッチを約5秒間“ON”にし、“OFF”にしてから空気圧を確認する

1 空気圧が 130 kpa未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kpa以上、指定空気圧未満の場合：手順 22へ

3 空気圧が指定空気圧（→P.355）の場合：手順 23へ

手順 22 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて手順 20から実施する

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

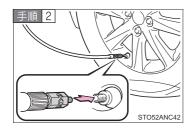
手順24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納します

手順25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■空気を入れすぎてしまったときは

手順1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順4 コンプレッサーのスイッチを数秒間“ON”にし、“OFF”にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限がきれたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限がきれる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル１本でタイヤ１本を１回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、繰り返し使用できます。

●外気温度が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

⚠ 警告

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットはラゲージルームに収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●車両を安全で平坦な場所に停止させる。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●パンク補修液注入中にボトルのホースが外れると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 警告

●破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。

●応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
・再度空気圧を測ってください。130 kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。 取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

●応急修理キットはラゲージルームに収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 106、109）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 106、109）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム*に異常がある可能性があります。（→P. 73）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 334）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 328）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 334）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで “エンジン スタート ストップ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

マニュアル車

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 74）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する。

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが N であることを確認する

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 5 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続ける

この方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

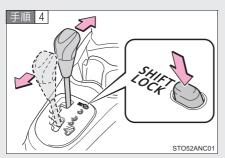
シフトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを“ACC”にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

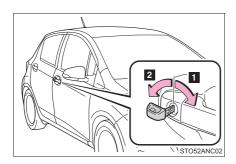
ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 22)

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 31）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

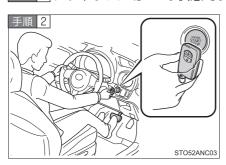
ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 22）を使って操作します。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切りかえ、エンジン始動の方法

オートマチック車

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

手順 2

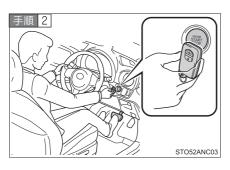
電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告ブザーが鳴ります。

イグニッション ON モードへ切りかわります。カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んだままで、“エンジン　スタート ストップ”スイッチを押します。

マニュアル車

手順 1 シフトレバーが N の状態でクラッチペダルとブレーキペダルを踏む

電子キーのトヨタエンブレム面で“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告ブザーが鳴ります。

イグニッション ON モードへ切りかわります。カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

手順 3 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏み込んだままで、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

前ページや上記の処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P（オートマチック車）または N（マニュアル車）にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

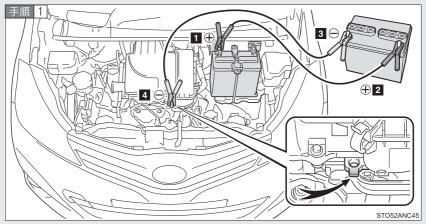
■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 272）

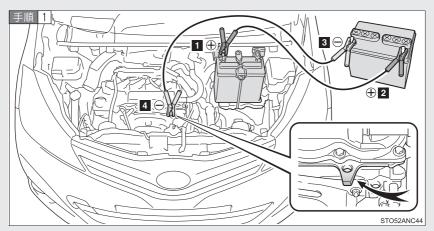
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1KR-FE エンジン搭載車

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

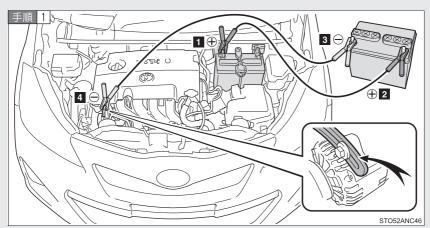
1NR-FE エンジン搭載車

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

1NZ-FE エンジン搭載車

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 スマートエントリー＆スタートシステム装着車は、“エンジンスタート ストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける
スマートエントリー＆スタートシステム装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタートストップ”スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について（オートマチック車）

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

●バッテリーが上がった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしてから行ってください。
バッテリーあがり前の“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは＋と－の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚·衣服·車体に付着しないようにする

●必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

■**車の損傷を防ぐために**

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

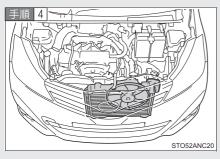
手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

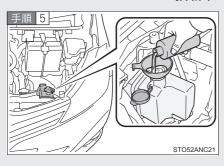
蒸気が出ている場合：
エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

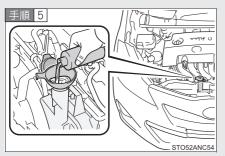
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：
高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

1KR-FE/1NR-FE エンジン搭載車

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

1NZ-FE エンジン搭載車

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

●高水温警告灯が点滅または点灯したり、エンジンの出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

FF 車（前輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 速またはRに確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

VSC 装着車：TRC・VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。（→P. 167）

4WD 車（4 輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてエンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動し、4WD オートモードになっていることを確認する（→P. 164）

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

警告

■**脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは（オートマチック車）**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

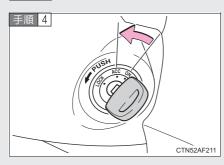
手順 2 シフトレバーを N に入れる。

シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジン スイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“エンジン スタート ストップ”スイッチを3秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

● ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

● スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正オイル・液類以外を使用される場合は、トヨタ純正オイル・液類に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	42

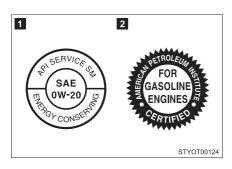
エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値※[1]）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="3">トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20※[2]
―API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30
―API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30
―API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 10W-30
トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20
―API SL, EC SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30
―API SL, EC SAE 10W-30</td><td>1KR-FE</td><td>2.9</td><td>3.1</td></tr>
<tr><td>1NR-FE</td><td>3.2</td><td>3.4</td></tr>
<tr><td>1NZ-FE</td><td>3.4</td><td>3.7</td></tr>
</table>

※[1] エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

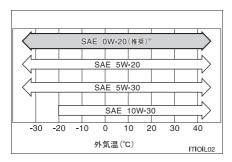
※[2] 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

<table>
<tr><th>銘柄</th><th>エンジン</th><th>容量 [L]
（参考値）</th></tr>
<tr><td rowspan="4">トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
凍結保証温度
濃度 30%　-12 ℃
濃度 50%　-35 ℃</td><td>1KR-FE</td><td>4.8</td></tr>
<tr><td>1NR-FE</td><td>4.7</td></tr>
<tr><td>1NZ-FE
（オートマチック車）</td><td>5.0</td></tr>
<tr><td>1NZ-FE
（マニュアル車）</td><td>4.8</td></tr>
</table>

オートマチックトランスミッション

<table>
<tr><th>銘柄</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th><th>容量 [L]
（参考値※）</th></tr>
<tr><td rowspan="4">トヨタ純正 CVT フルード　TC</td><td>1KR-FE</td><td>FF（前輪駆動）</td><td>6.30</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1NR-FE</td><td>FF（前輪駆動）</td><td>6.50</td></tr>
<tr><td>4WD（4 輪駆動）</td><td>7.98</td></tr>
<tr><td>1NZ-FE</td><td>FF（前輪駆動）</td><td>8.09</td></tr>
</table>

※　交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション

銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャル Ⅱ (API GL-3 SAE 75W-90)	1.9

トランスファー（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

クラッチ

■ クラッチフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
切れたときの床板とのすき間※	25 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	
リヤドラムブレーキ装着車	75 以上
リヤディスクブレーキ装着車	78 以上

※ エンジン回転時に 300 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※ 数	
リヤドラムブレーキ装着車	8 ～ 11
リヤディスクブレーキ装着車	6 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量 押力 98 N(10 kgf) (冷間時)	1KR-FE	10.0 ～ 12.0
	1NZ-FE	12.5 ～ 13.5

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	
寒冷地仕様車を除く	1.8
寒冷地仕様車	2.3

タイヤ・ホイール

標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
165/70R14 81S	14 × 5J	250 (2.5)	240 (2.4)
175/65R15 84H	15 × 5J	230 (2.3)	220 (2.2)
195/50R16 84V	16 × 6J	220 (2.2)	200 (2.0)
205/45R17 84W	17 × 7J	220 (2.2)	220 (2.2)

スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T125/70D15 95M	15 × 4T	420 (4.2)
T125/70D16 96M	16 × 4T	

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドライト **ハロゲンヘッドライト装着車** (バルブタイプ：H4) **ディスチャージヘッドライト装着車** ハイビーム（バルブタイプ：H11） ロービーム	 60/55 55 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	LED イルミネーションビーム*	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED ※
	尾灯 **スポーツリヤライト非装着車** **スポーツリヤライト装着車**	 5 LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
	リヤフォグライト*	21
車内	インテリアライト／パーソナルライト	5
	バニティライト	5
	ラゲージルームライト	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
KSP130	1KR-FE （1.0L ガソリン）	FF（前輪駆動）
NSP130	1NR-FE （1.3L ガソリン）	FF（前輪駆動）
NSP135		4WD（4 輪駆動）
NCP131	1NZ-FE （1.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="7">スマートエントリー&スタートシステム
(→P. 25)</td><td>スマートエントリー&スタートシステムの作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（ブザー）
(ライト自動点灯・消灯システム装着車のみ)</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）
(ライト自動点灯・消灯システム装着車のみ)</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間
(ライト自動点灯・消灯システム装着車のみ)</td><td rowspan="2">30 秒</td><td>60 秒</td></tr>
<tr><td>120 秒</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー
(ライト自動点灯・消灯システム装着車のみ)</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>連続してできる施錠操作の回数</td><td>2 回</td><td>無制限</td></tr>
</table>

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック（→P. 36）（スマートエントリー&スタートシステム装着かつライト自動点灯・消灯システム装着車のみ）	ワイヤレス機能	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	作動の合図（ブザー音量調整）	レベル5	レベル0～7
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	半ドア警告ブザー	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム（→P. 143）	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	暗さを検知してからライトを点灯するまでの時間	標準	長め
イルミネーテッドエントリーシステム（→P. 206）（ライト自動点灯・消灯システム装着車のみ）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	エンジン スイッチ“LOCK”後の作動（スマートエントリー&スタートシステム非装着車のみ）	あり	なし
	“エンジン スタート ストップ”スイッチ OFF 後の作動（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし
	検知エリア接近時の作動（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
4WD	4 ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
LSD	リミテッドスリップデファレンシャル
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

え

お

け

こ

さ

し

す

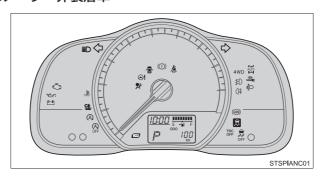
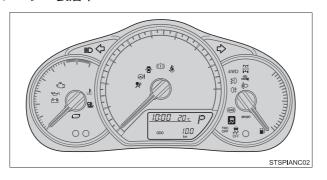
へ

ほ

症状別さくいん

警告灯が点灯、点滅した

P. 293 警告灯がついたときは

タコメーター非装着車

タコメーター装着車

■警告灯一覧

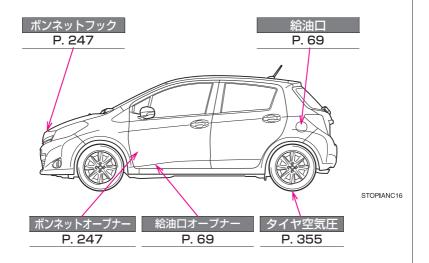
警告ブザーが鳴った

■警告灯の点灯、点滅を確認ください。(→P. 293)

■警告灯が点灯、点滅していないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 29 P. 107 P. 146 P. 161
	車外に出たとき	P. 29
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき	P. 29
	ワイヤレス機能でロックスイッチを押したとき	P. 36
	“エンジンスタートストップ”スイッチを押したとき	P. 29
	シフトレバーをPまたはN以外にしたとき	P. 161
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 122
	シフトダウンしたとき	P. 122
	ブレーキペダルを踏んだとき	P. 100

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

項目	内容
燃料の容量 (参考値)	42 L
燃料の種類	P. 70, 348
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 355
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 1KR-FE エンジン車： 2.9 L 1NR-FE エンジン車： 3.2 L 1NZ-FE エンジン車： 3.4 L オイルとフィルター交換時 1KR-FE エンジン車： 3.1 L 1NR-FE エンジン車： 3.4 L 1NZ-FE エンジン車： 3.7 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL、EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL、EC SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ツ-40

M　52C32
01999-52C32
IS-2011年９月17日
2011年９月24日　初版
ヴィッツ